

高知大学医学部看護学科
年報
Annual Report



2022（令和4）年度

高知大学医学部看護学科

目 次

はじめに	1
I. 学部及び研究科の目的と概要	2
医学部看護学科 総合人間自然科学研究科看護学専攻（修士課程）	
II. 入学者・卒業生・修了生の状況	15
III. 教職員 組織構成	17
IV. 教育・研究・社会活動分野別報告	19
基礎看護学講座 基礎看護学領域 / 保健医療情報学領域 臨床看護学講座 成人看護学領域 / 臨床看護学領域 / 小児看護学領域 母性看護学領域 / 助産学領域 / 精神看護学領域 地域看護学講座 高齢者看護学領域 / 公衆衛生看護学領域 / 在宅看護学領域	
V. 研究助成金取得状況	45
VI. 看護学科運営に関する委員会・活動報告	48

はじめに

2020年に日本国内で最初のコロナ感染者が確認されてから、2022年度には第7・8波となりさらに多くの感染者および死亡者が出ました。お亡くなりになられた方にお悔やみ申し上げますとともに、感染された方にお見舞い申し上げます。また、今も続くコロナ感染症への対応にご尽力いただいている医療従事者の方々に感謝申し上げます。

高知大学医学部看護学科ではキャンパス内に附属病院を有し、コロナ禍においても臨地実習や講義、感染対策にご指導を賜りました。学生に中断なく学習の機会を与えた下さった病院長、看護部長をはじめ多くの方々のご支援に深くお礼申し上げます。

2020年10月に保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」が一部改正され、本年度から新カリキュラムが開始されました。カリキュラム改正にあたり、カリキュラム委員会では現在の社会的状況や、高知県における特徴的な医療を取り巻く状況を踏まえつつ、高知大学医学部看護学科での学びの特色を出せるようにカリキュラム編成を行いました。本学科のカリキュラムは、看護の基盤となる教養や基礎知識を修得し、看護実践能力を身につけるための看護基盤系科目、看護関連の専門知識・技術を修得するための基礎看護系科目・臨床看護系科目・地域看護系科目・統合看護系科目、国際的な視野と知識を修得するための国際活動系科目および教諭資格を取得するための教職系科目の7つの科目群で構成されています。今後はカリキュラムを運用しながら評価を行い、質の高い教育を提供していきたいと考えています。

本年度、看護学科のホームページを刷新して閲覧しやすく、スマートフォンに対応したレスポンスデザインとしました。ホームページは在学生への掲示や高校生への情報発信として重要なコンテンツです。また、多くの大学生・高校生はスマートフォンを使用しています。ホームページを活用しながら、本学科の魅力が伝わる情報を発信していきたいと思えます。

研究費の獲得は教員が研究を遂行する上で欠かせません。本年度は科学研究費助成事業に研究代表者として2件の採択がありました。共同研究者および継続課題は10件です。また、学内特別研究費の令和4年度教育研究活性化事業経費に1件が採択されています。引き続き研究費の獲得や、研究を国内外に広く発信できるように努めてまいります。

末筆ではございますが、教育活動にご支援を賜りました全ての方々に深く感謝を申し上げます。

2023年9月吉日
高知大学医学部看護学科
看護学科長 大坂 京子

I. 学部及び研究科の目的と概要

医学部看護学科

医学部看護学科は豊かな人間性と高い倫理観に裏付けられた感性を持ち、看護をグローバルな視点からとらえ、人々の健康生活向上のために援助し、看護学の発展に貢献しうる創造力を有する人材の育成を教育理念とし、次の教育目的を掲げている。

1. 生命の尊厳に基づく倫理観を備え、人間を総合的に理解できる医療人としての能力の育成
2. 豊かな人間性を身につけ、相手の立場に立って、物事を判断できる人材の育成
3. 学際的視野に立ち、自ら人々の健康問題を発見し、解決できる能力の育成
4. 国際社会において、活躍できる人材の育成
5. 看護の実践者・教育者・研究者として、保健・医療・福祉に関連する他の職種とチームを組み、看護専門職としての役割を有効に発揮できる基礎的能力の育成

看護学科学生の教育課程は、高知大学医学部規則第7条の規定に基づき制定された医学部看護学科授業科目履修規則により授業科目を履修するものとし、また、授業の実施に必要な事項については、医学部看護学科授業実施細則に定められている。

看護学科では令和4年度入学生から、教育課程（カリキュラム）が改訂され、卒業時の資格取得や専門性を高めることを視野に入れた次の2つのコースがある。このうちいずれか一つのコースに所属することとしており、2年次12月以降に希望コース調査を実施する。ただし、公衆衛生看護学コースに関しては履修可能な人数に制限（制限を超えた場合は選抜試験がある）や2年次までにあらかじめ履修しておくべき科目がある。養護教諭を目指す場合は履修可能な人数に制限はないものの、入学当初から教職関連科目を計画的に履修し、確実に単位修得しておく必要がある。

2022（令和4）年度 医学部看護学科 学年歴・行事

日 程	行 事
2022年 4月1日（金）	学年始め
4月3日（日）	入学式
4月4日（月）～4月8日（金）	各学年オリエンテーション
4月7日（木）～4月11日（月）	1学期 WEB 履修登録期間
4月12日（火）	1学期授業開始
4月16日（土）・17日（日）予定	新入生歓迎イベント
5月9日（月）～6月17日（金）	保）公衆衛生看護学実習・（実）地域生活者支援実習・クリティカルケア看護実習（4年生）
5月9日（月）～6月17日（金）	養護実習【4週間】（4年生）
7月19日（火）～8月5日（金）	統合看護実習・在宅看護実習Ⅱ（4年生）
8月2日（火）～8月8日（月）	1学期試験期間（1年生・2年生・3年生）
8月9日（火）	夏季休業開始
8月・9月・10月・11月	教職科目集中講義（2年生・3年生）
8月31日（水）	夏季休業終了
9月1日（木）～9月30日（金）	特別授業期間（1年生・2年生・3年生）
9月5日（月）	Student Nurse 授与式
2022年9月12日（月） ～2023年2月17日（金）	臨地実習（3年生）
8月23日（火）～9月16日（金）	基礎看護学実習Ⅱ（2年生）
9月20日（火）～9月22日（木）	2学期 WEB 履修登録期間
10月3日（月）	2学期授業開始
10月7日（金）予定	体育大会（1年生・2年生休講）（Covid-19の為に中止）
10月25日（火）	合同慰霊祭（Covid-19の為に規模を縮小して開催）
11月20日（日）	医学部大学祭（南風祭）
12月27日（火）	冬季休業開始
2023年 1月4日（水）	冬季休業終了
1月5日（木）	2学期授業再開
2月2日（木）～2月8日（水）	2学期試験期間（1年生・2年生・3年次編入生）
2月9日（木）～2月22日（水）	基礎看護学実習Ⅰ，コミュニティ共生実習（1年生）
2月9日（木）～2月28日（火）	特別授業期間（1年生・2年生・3年次編入生）
3月1日（水）	学年末休業開始
3月23日（木）	卒業式・学位記授与式
3月31日（金）	学年末休業終了

（保）保健師資格関連科目，（実）看護師実践力育成科目

2022（令和4）年度 医学部看護学科 開講科目

2022（令和4）年度、看護学科開講科目は次の通りである。

区分	分野等	授業科目	年次	単位数 (時間数)	担当教員
初年次科目		大学基礎論	1	2(30)	奥谷文乃ほか
		学問基礎論	1	2(30)	看護学科教員
		課題探求実践セミナー	1	2(30)	母性/助産/小児看護教員
		大学英語入門[演]	1	2(60)	Daniel Brownson Ribble/ * Kemper Johanson
		英会話[演]	1	2(60)	* 濱田沙織
		情報処理[演]	1	2(30)	* 栗原幸男/兵頭勇己
教養科目	人文分野	生命倫理学	1	1(15)	山脇京子/濱田佳代子
		食生活論（選）	1	1(15)	* 鈴木麻希子
		居住環境論（選）	1	1(15)	* 田島昌樹
	社会分野	コミュニケーション論	1	1(15)	高橋美美
		家族社会学	1	1(15)	* 若林良和
		社会学	1	1(15)	* 池谷江理子
		国際関係論	2	1(15)	(開講せず)
	生命・ 医療分野	環境保健学	1	1(15)	* 吾妻 健
		スポーツ科学講義（選）	1	2(30)	医学科教員
		スポーツ科学実技（選）	1	1(30)	(開講せず)
	外国語分野	総合英語[演]（選）	2	1(30)	Daniel Brownson Ribble
		英語読解[演]（選）	2	1(30)	★植田呷佐
		フランス語[演]（選）	1	1(30)	* 安藤麻貴
		ドイツ語[演]（選）	1	1(30)	* 塩見由利
		韓国朝鮮語[演]（選）	1	1(30)	* 徐 恩卿
		中国語[演]（選）	1	1(30)	* 前田正也
	自然分野				
キャリア形成支援 分野	教育学・教育課程概論（選）	1	2(30)	★教育学部教員	
	教育心理学概論（選）	1	2(30)	★教育学部教員	
専門科目		看護情報論[演]	1	1(30)	* 栗原幸男
		身体のしくみ[演]	1	4(60)	奥谷文乃
		身体の働き	1	2(30)	溝渕俊二
		栄養学	1	1(15)	★久保田賢/宮本美緒
		生化学	1	1(15)	★久保田賢
		健康学習援助論	1	1(15)	杉本加代
		感染と免疫	2	2(30)	溝渕俊二/渡部嘉哉/ 他

	薬の効用と看護[演]	2	1(30)	溝渕俊二
	看護と病態	2	2(30)	溝渕俊二
	病態と治療	3	2(30)	溝渕俊二
	基礎看護学概論	1	2(30)	笹岡晴香
	看護倫理	1	1(15)	笹岡晴香
	看護理論	1	1(15)	笹岡晴香
	家族看護学	2	1(15)	吉村澄佳/各領域複数教員
	高齢者看護学概論	2	2(30)	田淵啓二/林 昌子
	小児看護学概論	2	2(30)	松本智津
	がん看護学とターミナルケア	3	2(30)	山脇京子/下元理恵
	成人看護学概論[演]	2	2(30)	山脇京子/佐藤美樹/竹村多加/下元理恵
	母性看護学概論Ⅰ	2	1(15)	吉村澄佳
	母性看護学概論Ⅱ	2	1(15)	吉村澄佳
	精神看護学概論	2	1(15)	大坂京子/高橋美美
	公衆衛生看護学概論	2	2(30)	齋藤美和/奥谷文乃
	健康福祉行政論	3	2(30)	* 福田敏秀
	保健統計論	3	2(30)	* 中川善典
	生活援助論[演]	1	2(60)	森木妙子/笹岡晴香/藤井千江美
	治療援助論[演]	1	2(60)	森木妙子/笹岡晴香/藤井千江美
	生活援助技術論Ⅲ[演]	2	1(30)	下元理恵
	生活援助技術論Ⅳ[演]	2	1(30)	森木妙子
	医療安全論Ⅰ	2	1(15)	笹岡晴香
	医療安全論Ⅱ	4	1(15)	森木妙子/各領域複数教員
	災害看護学[演]	4	1(30)	森木妙子/★西山謹吾
	在宅看護概論	2	2(30)	小笠原木綿/柴田優里絵
	成人看護援助論[演]	2	2(60)	山脇京子/佐藤美樹/竹村多加/下元理恵
	高齢者看護援助論[演]	2	2(60)	田淵啓二/林 昌子
	母性看護援助論[演]	3	2(60)	吉村澄佳
	小児看護援助論[演]	3	2(60)	松本智津
	精神看護援助論[演]	3	2(60)	大坂京子/高橋美美
	臨床心理学	2	1(15)	* 池 雅之
	公衆衛生看護援助論Ⅰ	2	2(30)	齋藤美和/杉本加代
	在宅看護援助論[演]	3	2(60)	小笠原木綿/柴田優里絵
	基礎看護学実習Ⅰ	1	1(45)	森木妙子/笹岡晴香/藤井千江美
	基礎看護学実習Ⅱ	2	2(90)	森木妙子/笹岡晴香/藤井千江美
	成人看護学実習Ⅰ	3	3(135)	山脇京子/竹村多加/下元理恵
	成人看護学実習Ⅱ	3	3(135)	山脇京子/佐藤美樹/竹村多加

		高齢者看護学実習	3	4(180)	田淵啓二/林 昌子
		母性看護学実習	3	2(90)	吉村澄佳
		小児看護学実習	3	2(90)	松本智津
		精神看護学実習	3	2(90)	大坂京子/高橋美美
		在宅看護学実習Ⅰ	3	1(45)	小笠原木綿/柴田優里絵
		在宅看護学実習Ⅱ	4	1(45)	小笠原木綿/柴田優里絵
		統合看護実習	4	2(90)	看護学科教員
		国際看護活動論[演]	4	1(30)	藤井千江美/* 吾妻健
		看護教育・管理学[演]	4	1(15)	森木妙子
		看護研究の基礎[演]	3	1(30)	大坂京子/他複数教員
		卒業研究[演]	4	2(60)	看護学科教員
		国際比較看護論(選必)	3	1(15)	(開講せず)
		原著講読(選必)	4	2(30)	奥谷文乃/大坂京子/田淵啓二
		保健医療情報学[演](選必)	3	2(30)	* 栗原幸男
		国際援助と保健資源(選必)	4	2(30)	* 栗原幸男/奥谷文乃
		看護学特別研究	1~4	1(15)	(開講せず)
養護教諭資格関連科目	保健師資格関連科目	地域看護学	1	2(30)	齋藤美和/杉本加代/小笠原木綿/柴田優里絵/大坂京子/林昌子
		コミュニティ共生実習	1	1(45)	齋藤美和/杉本加代/柴田優里絵
		疫学	3	2(30)	奥谷文乃/杉本加代
		社会保障論	4	2(30)	* 田中きよむ
		地域援助論	3	2(30)	齋藤美和/* 川本美香/* 小澤若菜
		公衆衛生看護援助論Ⅱ[演]	3	3(90)	杉本加代/齋藤美和/柴田優里絵
		公衆衛生看護援助論Ⅲ	4	2(30)	杉本加代/齋藤美和
		公衆衛生看護学実習	4	5(225)	杉本加代/齋藤美和/奥谷文乃/柴田優里絵
		産業保健論(養護は選択)	4	1(15)	奥谷文乃/杉本加代/齋藤美和
		学校保健論	4	1(15)	奥谷文乃/杉本加代/齋藤美和
養護教諭資格関連科目		養護概説	2	2(30)	* 柴崎由里/柴田優里絵/齋藤美和/笹岡晴香/大坂京子
		道徳教育	2	2(30)	★教育学部教員 他
		生徒指導(養護)	2	2(30)	* 藤田毅/齋藤美和
		養護実習(事前事後指導含む)	4	5(225)	笹岡晴香/齋藤美和/大坂京子/柴田優里絵
		教職実践演習(養護)	4	2(30)	★全学教職委員会/齋藤美和/笹岡晴香/大坂京子/柴田優里絵

高等学校教諭資格関連科目	教職入門	1	2(30)	★教育学部教員 他
	教育制度論	1	2(30)	★教育学部教員 他
	特別支援教育入門	2	2(30)	★教育学部教員 他
	総合的な学習の時間・特別活動指導法	2	2(30)	★教育学部教員 他
	教育の方法・技術	2	2(30)	★教育学部教員 他
	教育相談	2	2(30)	★教育学部教員 他
	看護科指導法Ⅰ	2	2(30)	履修者なし
	看護科指導法Ⅱ	4	2(30)	履修者なし
	生徒指導・進路指導	2	2(30)	履修者なし
	教育実習(事前事後指導含む)	4	3(135)	履修者なし
	教職実践演習(中・高)	4	2(30)	履修者なし
看護師実践力育成科目	地域生活者支援概論[演]	4	2(30)	田淵啓二/吉村澄佳/林昌子/小笠原木綿/齋藤美和/高橋美美
	地域生活者支援実習	4	3(135)	田淵啓二/林昌子/吉村澄佳
	クリティカルケア看護概論[演]	4	2(30)	山脇京子/佐藤美樹/竹村多加/下元理恵
	クリティカルケア看護実習	4	3(135)	山脇京子/佐藤美樹/竹村多加/下元理恵

★：他学部・他学科・エルダープロフェッサー／＊：非常勤講師

※1年生は新カリキュラムの科目名，2年生以上は旧カリキュラムの科目名を記載。

卒業論文と研究成果の公表状況

1. 令和4年度卒業生の卒業論文を以下に示す。

4年生が16グループに分かれて卒業研究に取り組んだ。

氏名	指導教員	論文題目
國本早紀 時任正幸 柴原陽佳 中間有咲 平木亜優	大坂京子 林昌子	コロナ禍における学生の居住形態の違いが及ぼす心理・社会的ストレス
足利玲香 市川夏鈴	溝渕俊二	ユズ果皮を用いた足浴による生理学的効果
今井佐耶 近藤由羽 永野和佐 前田夏希 山本倫世	佐藤美樹	看護学生の食意識と食習慣の関連－食習慣を意識した動機に焦点を当てて－
岡内桜和 金田成加 新光愛 中山こころ 山内萌々夏	濱田佳代子	月経痛に関するインターネット情報の内容分析
赤羽菜摘 小川舞 佐藤鈴音 古林万緒	松本智津	小児がんの告知前後における看護援助の実際
大石望代 榎田華奈 小仁井友海 重本絢音 西田安香音	石岡洋子	スポーツが女性アスリートの月経に及ぼす影響と課題についての文献検討
加藤愛望 小林奈未 重森ももか 土居千紗 西村一希	下元理恵	看護学生の自然災害に対する防災意識と防災行動に影響する要因
高次泰地 根本望未 濱田夏央 白石望 西野愛結	高橋美美	看護学生への新型コロナウイルス感染症の影響に関する文献研究－実習形態と内容の変化およびそれらが与える影響－
喜多永美子 小西碧 島本香子 藤井靖真 山下日菜子	竹村多加	COVID-19 影響下の急性期(周手術期)のオンライン実習と臨地実習における学びの認識
今井伶菜 佐藤里佳 竹葉夕華 福田智佳子 村山麗美	吉村澄佳	コロナ禍における看護学生の日常生活習慣の変化と月経前症候群(PMS)との関連について
阿部友紀 長橋瑠香	奥谷文乃 藤井千江美	ライフプランにおける家事や育児への参画に対する学生の意識に関連する因子
高良千優 二宮萌音 藤田夏海 山本悠加	杉本加代	4年制大学の看護学生のコミュニケーションスキルとスマホ依存の関連性
川崎眞子 久保愛海 田中風愛莉 野並汐夏 山崎紘靖	山脇京子 田淵啓二	健常日本人における舌圧値の変化に関するメタ分析－年齢別・男女別の比較－
勝原大介 曾我本彩香 中山実優 松山玲久 赤松利帆	小笠原木綿	コロナ禍における公民館での活動の制限とそれに伴う利用高齢者の健康への影響に関する実態調査
山田麻由佳 魚実樹 大崎理紗 大谷華南羽 三村恵理香 山下まどか	齋藤美和 柴田優里絵	養護教諭による精神的支援と求められる対応～大学生を対象としたアンケート調査から～
甲村莉子 永森清夏 山本真里恵	溝渕俊二 渡部嘉哉 川村巧成	ユズ果皮加工食品の経口摂取による生理学的変化

1. 令和3年以前の卒業生の研究成果を以下に示す。

令和3年度卒業生

・新原春香, 岩本萌花, 佐々木桃香, 那須香, 吾妻健, 笹岡晴香 (2023) : 養護教諭が実施した新型コロナウイルス感染症予防対策. 四国公衆衛生学会雑誌. 68 (1). 69-76.

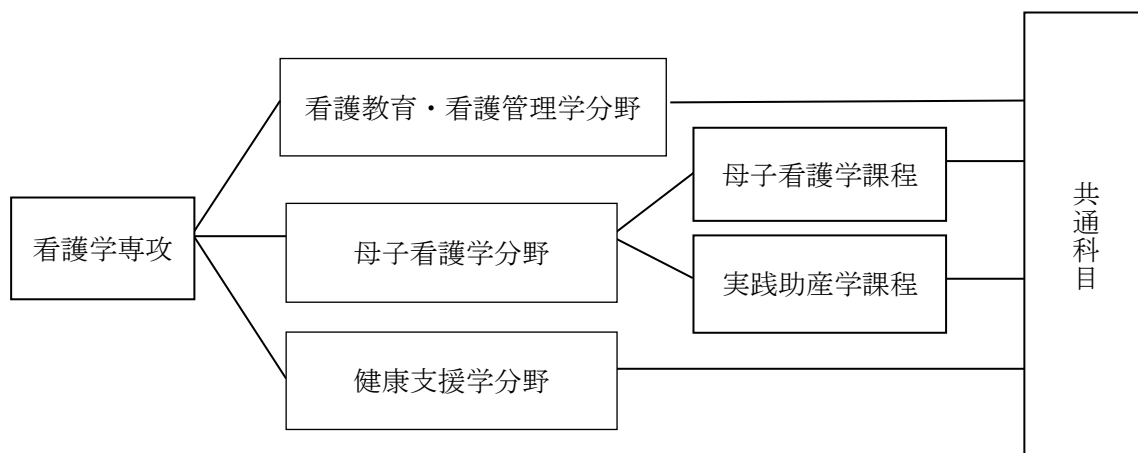
総合人間自然科学研究科看護学専攻（修士課程）

健康で文化的な生活を送るという国民の権利を支援することが医療者には求められている。看護学専攻においては、高知大学の教育理念に鑑み「現場主義」を重視し、社会の一員として求められるソーシャルスキルを基盤とした、課題解決能力を身につけた人間力豊かな人材を育成する。さらに、医療の場を含む日常生活の場で人間にとって最も重要な健康の増進を目指しつつ、生活者の視点で包括的な支援を行う高度に専門的な知識・技能を身につけた論理的・創造的な看護の実践者・看護学教育者・看護管理者の育成を目指している。

看護学専攻には、看護師養成施設等の看護教員、生涯教育や管理的業務に従事する看護実践者を養成するための「看護教育・看護管理学分野」、母子の健康および生活の中で或は施設における QOL 向上のための看護実践者を養成するための「母子看護学分野」、全ての人を対象として、看護・生活支援・健康増進を行う看護師・保健師・養護教諭の学ぶ場を提供し、社会をリードする実践者・研究者の育成するための「健康支援学分野」を置いている。

母子看護学分野には、母子看護学課程と実践助産学課程の二つの課程を置き、実践助産学課程では助産師の国家試験受験資格の取得とともに高度専門職業人（助産師）の育成を目的としている。

また、それぞれの分野における看護学の視野を広げつつ、看護学において基盤とすべき学問と将来の看護実践を支援する情報処理技術などを習得させるための共通科目を設けている。



2022（令和4）年度 看護学専攻修士課程 学年歴・行事

日 程	行 事
2022年 4月1日（金）	学年始め
4月3日（日）	入学式
4月6日（水）	新入生オリエンテーション
4月8日（金）	履修届提出締切（新入生）
4月12日（火）	第1学期授業開始
8月9日（火）	夏季休業開始
8月31日（水）	夏季休業終了
9月20日（火）	秋季修了式（学位記授与式）
9月30日（金）	第1学期授業終了
10月1日（土）	創立記念日
10月3日（月）	第2学期授業開始
10月25日（火）	合同慰霊祭（Covid-19のため規模縮小開催）
11月20日（日）	医学部大学祭（Covid-19のため規模縮小開催）
12月20日（火）	学位申請書提出締切（2年次生）
12月27日（火）	冬季休業開始
2023年 1月4日（水）	冬季休業終了
1月14日（土）・1月15日（日）	大学入試共通テスト
1月20日（金）	学位論文研究発表会（2年次生）
2月25日（土）・2月26日（日）	学部入学試験（前期）
2月28日（火）	第2学期授業終了
3月1日（水）	学年末休業開始
3月12日（日）	学部入学試験（後期）
3月23日（木）	修了式（学位記授与式）

2022（令和4）年度 看護学専攻修士課程 開講科目

2022（令和4）年度、看護学専攻修士課程の開講科目は次の通りである。

区分	授業科目	年次	単位数		担当教員名
			講義	演習	
共通科目	特別研究（研究計画立案）	1・2		2	森木妙子/奥谷文乃/笹岡晴香/濱田佳代子/石岡洋子
	特別研究（実験・調査）	1・2		2	〃
	特別研究（ゼミナール）	1・2		2	〃
	特別研究（論文作成）	1・2		2	〃
	特別研究（研究発表）	1・2		2	〃
	課題研究	1・2		6	森木妙子/濱田佳代子/石岡洋子
	健康情報論 *	1	2		☆栗原幸男
	保健統計論 *	1	2		奥谷文乃/齋藤美和
	健康環境論 *	1	2		奥谷文乃/溝渕俊二
	看護研究論 *	1	2		森木妙子/溝渕俊二/笹岡晴香/田淵啓二/杉本加代
	看護理論 *	1	2		山脇京子/佐藤美樹
	看護倫理 *	1	2		森木妙子
	ペアレンティング論 *	1	2		松本智津
	看護英語 *	1	2		大坂京子/藤井千江美
看護教育・ 看護管理学 分野科目	看護教育・管理学特論Ⅰ	1	2		笹岡晴香
	看護教育・管理学特論Ⅱ	1	2		森木妙子/田淵啓二
	看護教育・管理学演習Ⅰ	1		2	笹岡晴香
	看護教育・管理学演習Ⅱ	1		2	森木妙子
母子看護学 分野科目	母子看護学特論Ⅰ	1	2		濱田佳代子/松本智津/吉村澄佳/石岡洋子
	母子看護学特論Ⅱ	1	2		松本智津/濱田佳代子/吉村澄佳/石岡洋子
	母子看護学演習	1		4	濱田佳代子/松本智津/吉村澄佳/石岡洋子
健康支援学 分野科目	生涯生活支援学特論	1	2		佐藤美樹/溝渕俊二/山脇京子/下元理恵/竹村多加
	生涯生活支援学演習	1		2	山脇京子/佐藤美樹/溝渕俊二/下元理恵/竹村多加
	地域健康支援学特論	1	2		大坂京子/田淵啓二/小笠原木綿/高橋美美/林昌子
	地域健康支援学演習	1		2	大坂京子/田淵啓二/小笠原木綿/高橋美美/林昌子
	公衆衛生看護学特論	1	2		杉本加代/齋藤美和/柴田優里絵
	公衆衛生看護学演習	1		2	奥谷文乃/杉本加代/齋藤美和/柴田優里絵
基礎助産学 科目	助産学概論	1	1		濱田佳代子
	ウイメンズヘルステ論	1	2		濱田佳代子/石岡洋子
	母子の健康科学特論	1	1		石岡洋子/溝渕俊二
	リプロダクティブ・ヘルステ論	1	2		濱田佳代子/石岡洋子

*：開放科目（他専攻学生の履修を認める科目）， ☆：非常勤講師

区分	授 業 科 目	年次	単位数		担 当 教 員 名
			講義	演習	
助産学専門 科目	周産期管理特論	1	2		石岡洋子/奥谷文乃/畠山豊/奥原義保(特任シニア)
	妊娠期診断・技術学特論	1	2		石岡洋子/濱田佳代子
	分娩期診断・技術学特論	1	2		石岡洋子/濱田佳代子
	産褥期診断・技術学特論	1	1		濱田佳代子/石岡洋子
	新生児・乳児期診断・技術学特論	1	1		濱田佳代子/松本智津
	助産診断・技術学演習	1		1	濱田佳代子/石岡洋子
	助産過程展開演習	1		1	石岡洋子/濱田佳代子
	地域助産活動論	1	1		濱田佳代子/杉本加代/石岡洋子
	地域助産活動論演習(助産道場)	1・2		1	濱田佳代子/石岡洋子
	助産管理学	1	1		濱田佳代子/石岡洋子
	助産管理学演習	1・2		1	濱田佳代子/大坂京子/高橋美美/石岡洋子
	助産学実践 科目	助産学実習Ⅰ	1・2		1
助産学実習Ⅱ		1・2		7	石岡洋子/濱田佳代子
助産学実習Ⅲ		1・2		1	濱田佳代子/石岡洋子
地域助産学実習		1・2		2	濱田佳代子/石岡洋子

修士論文と研究成果の公表状況

1. 令和4年度修了生の修士論文と研究成果公表状況を以下に示す。

氏名	主査	論文題目
	副査	
森田 千晶	森木妙子	施設に勤務するアドバンス助産師の産後うつを予測する視点
	濱田佳代子 石岡洋子	
川口 花音	森木妙子	アドバンス助産師の助産師としての成長における思いのプロセス
	濱田佳代子 石岡洋子	
坂本 桃菜	森木妙子	成熟期にある女性看護職の体格とライフスタイルの関連
	濱田佳代子 石岡洋子	
西村 美祈	森木妙子	周産期メンタルヘルスケアにおける看護支援の実態
	濱田佳代子 石岡洋子	
山脇 利沙	奥谷文乃	精神科看護特有の倫理的側面と勤務状況の実状
	大坂京子 笹岡晴香	
小松 千草	森木妙子	3年課程看護専門学校に通う看護学生の学生生活の困難感とコンコーダンス
	笹岡晴香 杉本加代	
小笠原 あゆみ	森木妙子	看護管理を実践していく上で求められる看護師長のマネジメント行動と看護管理実践の成果
	中野葉子 齋藤美和	
山崎 さくら	森木妙子	部署の医療安全委員の活動と委員が捉える患者安全文化～特定機能病院の医療安全委員に焦点を当てて～
	笹岡晴香 杉本加代	
入川 真理	森木妙子	慢性期の中小規模病院のマーケティングに必要とされるトップマネジャーとミドルマネジャーの行動特性
	中野葉子 齋藤美和	
小田 邦子	笹岡晴香	中堅看護師の排便ケアの質向上における現任教育の検討
	森木妙子 杉本加代	
吉永 富美	森木妙子	看護部長の取り扱う情報と病院経営を踏まえた看護管理の実践
	杉本加代 中野葉子	

2. 令和3年度以前の修了生の研究成果公表状況を以下に示す。

令和3年度修了生

・別府朋加，関屋伸子，濱田佳代子，石岡洋子，池内和代（2023）：分娩を取り扱わない部署への異動体験が助産師のキャリア形成に与える意味．高知大学看護学会誌．16（1）．55-69.

令和2年度修了生

・常石俊道，森木妙子（2022）：一般病棟で勤務する男性看護師のキャリアアップや継続に有効な男性看護管理者が実践している関わり．看護・保健科学研究誌 22（1）．42-51.

・小原泰美，森木妙子（2022）：看護師長を補佐する管理者のエンパワーメントと看護管理能力との構造（第2報）．高知大学看護学会誌 16（1）．17-26.

・有光沙織，森木妙子（2022）：精神科看護師の仕事に対するやりがいとキャリア・ア

ンカーとの関連(第2報). 高知大学看護学会誌 16 (1) . 3-15.

・前田愛友香, 森木妙子 (2022) : 診療所における助産師外来運営 (第2報)~助産師外来の《管理体制の整備》に及ぼす影響要因~. 第42回日本看護科学学会学術集会.

・有光沙織, 森木妙子 (2022) : 精神科看護師の仕事に対するやりがいとキャリア・アンカーとの関連. 第32回日本精神保健看護学会学術集会.

平成30年度修了生

・田中智視, 森木妙子 (2022) : 看護師の目標管理の構造 (第1報) . 高知大学看護学会誌 16 (1) . 27-37.

・田中智視, 森木妙子 (2022) : 目標管理に見通しをもつことが看護師の自己実現に与える影響 (第2報) . 高知大学看護学会誌 16 (1) . 39-53.

・中村奈緒, 森木妙子 (2022) : 特定行為研修を修了した看護専門職としての自律性を高める要因の構造. 第42回日本看護科学学会学術集会.

平成27年度修了生

・南場智恵, 笹岡晴香, 岩崎修美, 高橋永子, 吾妻健 (2023) : 医療療養型病棟入院患者に対する看護職・介護職の便秘ケアの実態. 看護・保健科学研究誌. 23 (1). 84-95.

Ⅱ. 入学者・卒業生・修了生の状況

1. 医学部看護学科

入学者数

(人)

年度		通常入学入学者数			3年次編入学入学者数			入学者数		
		県内	県外	計	県内	県外	計	県内計	県外計	合計
令和4年度	男	1	4	5	0	0	0	1	4	5
	女	14	42	56	3	7	10	17	49	66

卒業生進路状況

(人)

年度	保健師	看護師	進学	教職	その他	合計
令和4年度	6 (2)	51 (6)	4 (2)	8 (1)	2 (1)	71 (12)

() : 高知県内

教員免許等の取得状況

(人)

年度	看護科教員免許			養護教諭Ⅰ種免許		
	取得者数		合計	取得者数		合計
	男	女		男	女	
令和4年度	0	0	0	1	17	18

2. 大学院看護学専攻修士課程

入学者数

(人)

年度	入学者数		
	女	男	計
令和4年度	12	0	12

修了者数

(人)

年度	修了者数		
	女	男	計
令和4年度	11	0	11

修了生進路状況

(人)

年度	保健師	助産師	看護師	教員	進学	その他	計
令和4年度	0	2	8	1	0	0	11

Ⅲ. 教職員組織構成

1. 高知大学教育研究部医療学系看護学部門教員

教授	准教授	講師	助教
溝渕俊二 奥谷文乃 山脇京子 森木妙子 大坂京子 石岡洋子(2/1～)	佐藤美樹 笹岡晴香 田淵啓二(～9/30) 松本智津 杉本加代 濱田佳代子	齋藤美和 吉村澄佳 高橋美美 下元理恵 竹村多加 小笠原木綿 石岡洋子(～1/31)	林 昌子 藤井千江美 柴田優里絵 別府朋加(11/1～)

2. 総合人間自然科学研究科修士課程看護学専攻教員および事務職員

1) 講座別

看護学科長		山脇京子			
講座	領域	教授	准教授	講師	助教
基礎看護学	基礎看護学	森木妙子	笹岡晴香		藤井千江美
	成人看護学	山脇京子	佐藤美樹	竹村多加 下元理恵	
臨床看護学	臨床看護学	溝渕俊二			
	小児看護学		松本智津		
	母性看護学			吉村澄佳	
	助産学	石岡洋子 (2/1～)	濱田佳代子	石岡洋子 (～1/31)	別府朋加 (11/1～)
	精神看護学	大坂京子		高橋美美	
地域看護学	高齢者看護学		田淵啓二 (～9/30)		林 昌子
	公衆衛生看護学	奥谷文乃	杉本加代	齋藤美和	
	在宅看護学			小笠原木綿	柴田優里絵

看護学科事務	野々宮遥	森本貴美恵
--------	------	-------

2) 分野別

看護学専攻長	森木妙子			
領域	教授	准教授	講師	助教
看護教育・ 管理学分野	森木妙子	笹岡晴香		藤井千江美
母子看護学分野	石岡洋子 (2/1～)	松本智津 濱田佳代子	吉村澄佳 石岡洋子 (～1/31)	別府朋加 (11/1～)
成人・老人 看護学分野	溝渕俊二 奥谷文乃 山脇京子 大坂京子	佐藤美樹 田淵啓二 (～9/30) 杉本加代	竹村多加 齋藤美和 高橋美美 下元理恵 小笠原木綿	林 昌子 柴田優里絵

看護学科事務	野々宮遥	森本貴美恵
--------	------	-------

IV. 教育・研究・社会活動分野別報告

基礎看護学講座

基礎看護学領域

〔教員名〕 教授：森木妙子

准教授：笹岡晴香

准教授：中野葉子（7月1日から）

助教：藤井千江美

【教育活動】

基礎看護学では、看護実践の基盤を形成することをねらいとして、看護とはなにか、その目的や看護の対象となる人々への理解ならびに看護の方法論などについて、必要な知識や技術を教授している。学部教育では、対象に看護の理念や役割などを教授し、看護者として看護の考え方を形成すると共に、看護実践の方法論となる技術について生活援助技術論において、身の回りの援助技術から治療援助、看護過程やフィジカルアセスメントなど、原理を学びその技を身につけるように教授している。

また、看護情報論や医療安全、災害看護、国際看護、看護教育・看護管理などについて、対象者の安全を守ると共に効果的な指導のあり方について教授している。

大学院では、看護教育・看護管理学分野に属し、よりよい看護を実践するための看護研究論や看護倫理、看護教育・管理のあり方について大学院生と共に学問への理解を深めている。

【研究活動】

○森木妙子

看護管理分野の経営に関する研究

看護師長の看護管理の工夫に関する研究

災害看護に関する研究

○笹岡晴香

排泄のケアに関する研究

寄生虫感染症予防教育に関する研究

○中野葉子

医療サービスの質に関する研究

医療安全の組織風土に関する研究

看護おけるケアリングとしての技術力理論に関する研究

ケアリング教育の開発に関する研究

○藤井千江美

アフリカの農村地域における母子の健康増進に向けたしくみ作りに関する研究

【社会活動】

○森木妙子

—講義—

- ・ 高知県看護協会認定看護管理者研修セカンドレベル講師 (2022年5月14日, 8月6日, 8月27日, 9月23日, 10月22日, 12月17日)
- ・ 高知医療センター看護管理者研修講師 (2022年5月31日, 10月25日, 2023年3月25日)
- ・ 龍馬看護ふくし専門学校講義「ケースレポートの書き方」講師 (2023年1月7日)

—社会活動—

- ・ 高知市保健所自宅療養支援の応援 11回 (5月21日～8月12日)
- ・ 近森病院附属看護学校 教育課程編成委員
- ・ 地域医療を支える四国病院経営プログラム事業推進委員
- ・ 岡豊地区防災連合会役員 (看護・介護部門相談役)
- ・ 認定看護管理者教育運営委員会委員 (高知県看護協会) (2022年6月から2023年通常総会まで)
- ・ 幡多けんみん病院看護部の臨床研究指導 (2022年4月～2023年3月)
- ・ 国立高知病院看護部の臨床研究指導 (2022年4月～2023年3月)
- ・ 高知女子大学看護学会誌査読委員 (2022年2月1日～2023年1月31日)

○笹岡晴香

—講義—

- ・ 保健師助産師看護師実習指導者講習会「実習指導の実際 基礎看護」, 高知県看護協会 (2022年10月3日)
- ・ 龍馬看護ふくし専門学校「レポートの書き方の基本」講師 (2022年12月5日)

—社会活動—

- ・ 高知大学看護学会誌査読委員

—その他—

- ・ 高知大学看護学同窓会 会長
- ・ 高知大学創立75周年記念事業委員会 委員
- ・ 高知大学医学部准教授講師会 運営委員

○中野葉子

—社会活動—

- ・ 医療法人社団三愛会三船病院 教育プログラム開発支援

—その他—

- ・ 高知大学医学部准教授講師会 副会長

○藤井千江美

—講義—

- ・ 高知開成専門学校「国際看護学」非常勤講師 (対面 2022年11月14日, 21日)
- ・ 松下看護専門学校「国際協力」非常勤講師 (オンライン 2022年11月30日, 12月5日, 12月12日)

- ・ 聖バルナバ助産師学院「地域母子保健」非常勤講師（オンライン 2022年12月10日）
- ・ 高知県高坂学園生涯大学「アフリカの国・文化社会・保健医療事情について」講師（対面 2022年6月25日）
- ・ 奈良県立畝傍高等学校「1年生の課題探求実践に向けた出前講座」講師（オンライン 2023年1月11日）
- －その他－
- ・ NPO 法人 HANDS (Health and Development Service) 理事、兼シエラレオネプロジェクト担当

【研究業績】

－論文－

1. 常石俊道, 森木妙子 (2022) : 一般病棟で勤務する男性看護管理師のキャリアアップや継続に有効な男性看護管理者が実践している関わり. 看護・保健科学研究誌 22 (1). 42-51.
2. 小原泰美, 森木妙子 (2022) : 看護師長を補佐する管理者のエンパワーメントと看護管理能力との構造 (第2報). 高知大学看護学会誌 16 (1) . 17-26.
3. 有道沙織, 森木妙子 (2022) : 精神科看護師の仕事に対するやりがいとキャリア・アンカーとの関連 (第2報). 高知大学看護学会誌 16 (1) . 3-15.
4. 田中智視, 森木妙子 (2022) : 看護師の目標管理の構造 (第1報). 高知大学看護学会誌 16 (1) . 27-37.
5. 田中智視, 森木妙子 (2022) : 目標管理に見通しをもつことが看護師の自己実現に与える影響 (第2報). 高知大学看護学会誌 16 (1) . 39-53.
6. 新原春香, 岩本萌花, 佐々木桃香, 那須香, 吾妻健, 笹岡晴香 (2023) : 養護教諭が実施した新型コロナウイルス感染症予防対策. 四国公衆衛生学会雑誌. 68 (1). 69-76.
7. 南場智恵, 笹岡晴香, 岩崎修美, 高橋永子, 吾妻健 (2023) : 医療療養型病棟入院患者に対する看護職・介護職の便秘ケアの実態. 看護・保健科学研究誌. 23 (1). 84-95.

－学会発表－

1. 入川真理, 森木妙子 (2022) : トップマネジャーとミドルマネジャーの行動特性の必要性と実際～慢性期の中小規模病院に焦点を当てて～. 第42回日本看護科学学会学術集会.
2. 山崎さくら, 森木妙子 (2022) : 特定機能病院で勤務する部署の医療安全委員としての活動. 第42回日本看護科学学会学術集会.
3. 吉永富美, 森木妙子 (2022) : 看護部長が行う情報の取り扱いの構造. 第42回日本看護科学学会学術集会.
4. 前田愛友香, 森木妙子 (2022) : 診療所における助産師外来運営 (第2報)～助産師外来の《管理体制の整備》に及ぼす影響要因～. 第42回日本看護科学学会学術集会.
5. 有光沙織, 森木妙子 (2022) : 精神科看護師の仕事に対するやりがいとキャリア・アンカーとの関連. 第32回日本精神保健看護学会学術集会.
6. 中村奈緒, 森木妙子 (2022) : 特定行為研修を修了した看護専門職としての自律性を高める要因の構造. 第42回日本看護科学学会学術集会.

7. 今出政代, 中野葉子 (2022) : がん看護の困難感に対する緩和ケア認定看護師に求められる役割. 第 27 回日本緩和医療学会学術大会.
8. 今出政代, 中野葉子 (2022) : 開設 1 年経過した A 病棟で勤務する看護師のがん看護に対する困難感. 第 27 回日本緩和医療学会学術大会.
9. Yoko Nakano, Tomoya Yokotani, Yoshiyuki Takashima, Yuko Yasuhara, Hirokazu Ito, Kyoko Osaka, Mutsuko Kataoka, Tetsuya Tanioka (2022) : The survey for nurse managers' perception and practice status on theory of Technological Competency as Caring in Nursing (TCCN) a psychiatric hospital. 4th international conference on technological Competency as caring in Nursing and Health Sciences.

臨床看護学講座

成人看護学領域

- 〔教員名〕 教授：山脇京子
准教授：佐藤美樹
講師：竹村多加
講師：下元理恵

【教育活動】

成人看護学では、成人期の発達課題・健康障害など成人期の特徴を理解すると共に、看護展開に必要な看護理論の理解や、根拠に基づいた看護の実際と臨床看護技術の習得を目指し教授した。

学部教育では、教養科目の「生命倫理学」[学問基礎論]「健康」、専門教育として成人看護学概論、成人看護援助論、がん看護学とターミナルケア、医療安全Ⅱ、及び成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学領域の生活援助論Ⅲを支援し、コース選択である看護師実践能力育成科目の「クリティカルケア看護概論」「クリティカルケア看護実習」に関わった。FD取組としては、成人看護援助論（演）「看護過程演習」に関する公開講義を実施した。また、卒業研究指導では、研究計画から実施、中間発表会、論文作成までの一連のプロセスを通して指導を行った。

大学院教育では、「生涯生活支援学特論」、「生涯生活支援学演習」、「看護理論」「成人老年看護特論Ⅰ」「成人老年看護特論Ⅱ」を教授すると共に、論文指導も行った。

【研究活動】

- 山脇京子
慢性疾患患者の QOL. 看護教育に関する研究に取り組んだ。
- 佐藤美樹
地域で暮らす高齢者の健康、睡眠、QOL に関する研究に取り組んだ。
- 竹村多加
成人看護学実習の看護教育に関する研究に取り組んだ。
- 下元理恵
慢性心不全に関する研究、看護教育に関する研究に取り組んだ。

【社会活動】

- 山脇京子
－講義－
 - ・ 高知県看護協会主催、保健師助産師看護師等実習指導者講習会「実習指導の原理」（2022年9月20日）
 - ・ 高知県立高知東高等学校 看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）（2022年9月9日、9月16日、10月7日、10月28日、11月4日、11月18日、11月25日）
- －社会活動－
 - ・ 高知看護教育研究会 会長

- ・ 高知大学看護学会誌査読
- ・ インターナショナル Nursing Care Research 評議委員, 査読委員
- ・ 高知大学看護学同窓会 幹事
- ・ 保健師助産師看護師実習指導者講習検討会委員 (2022年7月25日, 11月7日, 11月11日)

○佐藤美樹

—講義—

- ・ 高知県看護協会主催, 保健師助産師看護師等実習指導者講習会「実習指導の原理」(2022年9月21日)「実習指導案作成・成人看護学」(2022年10月6日)
- ・ 高知県立高知東高等学校 看護の統合と実践Ⅲ(看護研究)(2022年9月30日, 10月13日, 10月20日)

—社会活動—

- ・ 高知大学看護学会誌査読委員
- ・ 高知大学附属病院モニター

○下元理恵

—講義—

- ・ 高知県看護協会主催, 保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護教育課程」(2022年9月21日, 10月5日, 10月6日, 10月12日)

○竹村多加

—講義—

- ・ 高知県看護協会主催, 保健師助産師看護師等実習指導者講習会「実習指導の原理」(2022年9月22日)
- ・ 清和准看護学院「母性看護, 女性生殖器疾患の看護」(2023年1月7日, 1月21日, 1月28日, 2月4日, 2月18日)

—社会活動—

- ・ 高知県看護教育研究会連絡係、役員(書記)
- ・ 高知県看護協会看護研究倫理審議会委員
- ・ 安田町広報「広報やすだ」2023年2月号 高知大学医学部看護学科だより寄稿

【研究業績】

—論文—

1. 吉村澄佳, 齋藤美和, 山脇京子, 井上舜也, 敷田幹文 (2022): 妊婦シュミレーターを用いた腹部触診技術の客観的評価: 看護学生と経験者の比較. 母性衛生. 第63巻2号. 382-389.
2. 竹村多加, 佐藤美樹, 田中理子, 山脇京子 (2022): コロナ禍での実習形態別学習効果. インターナショナル Nursing Care Research. 21. 1-10.
3. 成瀬美佐, 佐藤美樹 (2022): 職場サポートが感染対策リンクナースの役割受容, 仕事

意欲に与える影響. 日本環境感染学会誌 37 (3), 78-89.

4. Rie Shimomoto, Toru Kubo, Fukuko Yamanaka, Miyuki Tsuchihashi-Makaya, Narufumi Suganuma, Hiroaki Kitaoka (2023) : Current state of knowledge and information sharing among home healthcare professionals involved in heart failure management. Journal of Cardiology. 81. 292-296. Doi:10.1016/j.jjcc.2022.12.004
5. Yuki Shimotake, Etongola Papy Steve Mbelambela, Sifa Marie Joelle Muchanga, Antonio F. Villanueva, Marlinang Diarta Siburian, Rie Shimomoto, Kazuyo Ikeuchi, Yoko Matsunaga, Marina Minami, Tatsuo Iiyama, Narufumi Suganuma (2022) : Knowledge, attitude, perception, and factors associated with the risk perception of COVID - 19 among nursing college students in Japanese universities: A cross - sectional study. Health Science Report. 1-9. Doi: 10.1002/hsr2.922
6. Kyoko Osaka, Rie Shimomoto, Ryuichi Tanioka, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Yoshihiro Kai, Tetsuya Tanioka (2023) : Differences in healthcare professionals' perceptions of robots' usefulness, challenges, cautions, ethical issues, and intermediary roles by the experience of robot use. International Symposium on System Integration. 1046-1049.
7. 小笠原京子, 下元理恵, 山脇京子 (2022) : 中堅看護師の役割付与による停滞の認識と停滞から抜け出すまでのプロセス. インターナショナル Nursing Care Research 研究会. 21 (3). 109-117.

—学会発表—

1. 竹村多加, 佐藤美樹, 田中理子, 山脇京子 (2022) : COVID-19 禍における成人看護学実習の臨地実習とオンライン実習の学習状況の相違. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. Web 開催. 広島県.
2. 濱口富代, 山脇京子 : 看護師長の管理能力形成とメンタリング及び自己教育力の関連. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. Web 開催. 2022.
3. Miki Sato, Feni Betriana, Ryuichi Tanioka, Kyoko Osaka, Yueren Zhao, Tetsuya Tanioka (2022) : The characteristics of sleep and autonomic activity cases in active older adults who are younger than their age: comparative case study. 4rd Technological Competency as Caring in the Health Sciences 2022, Zoom, August 17-18, 2022.
4. 山村真智子, 佐藤美樹, 松本智津 (2022) : 看護学実習に携わる看護師の学生指導が看護師としての成長に与える要因. 第 53 回日本看護学会学術集会. 千葉県千葉市幕張メッセ.
5. Rie Shimomoto, Kyoko Yamawaki, Taka Takemura, Miki Sato, Chizu Matsumoto, Kyoko Osaka (2022) : Nursing student's personal growth perception of those affected due to COVID-19, Technological Competency as Caring in the Health Science, Web.
6. Rie Shimomoto, Kyoko Yamawaki, Taka Takemura, Miki Sato, Chizu Matsumoto, Kyoko Osaka (2022) : Nursing student's personal growth perception of those affected

due to COVID-19. 4th International Conference on Technological Competency as Caring in nursing and health Sciences, Web.

7. 佐々木牧子, 下元理恵, 津村早保, 久保亨, 宮地昌文, 前田貴之, 久武稔幸, 掛田恭子, 北岡智子, 北岡裕章 (2022) : 高知県における末期心不全に対する専門的緩和ケアを行う医療者の知識と困難感. 第27回日本緩和医療学会学術集会. 神戸.
8. 小笠原京子, 下元理恵, 山脇京子 (2022) : 中堅看護師の役割付与の受け止めと停滞の認識. 第42回日本看護科学学会学術集会. ハイブリット開催. 広島.

臨床看護学領域

〔教員名〕 教授：溝渕俊二

兼 高知大学医学部 共同研究講座「高知馬路村ゆず健康講座」

〔教員名〕 特任教授：溝渕俊二 特任准教授：渡部嘉哉 特任助教：浅野公人，宮本美緒
特任研究員：川村巧成，北添範子，松浦 梓

【教育活動】

1. 臨床看護学では，専門基礎科目である1年生の「身体の働き」，2年生の「薬の効用と看護」，「看護と病態」，「感染と免疫」，そして3年生の「病態と治療」などの共通専門科目を担当している．1年生には，3年ぶりに「解剖実習」を行ったが，「手術と集中治療室の見学」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった．その他，医学科において医療管理学では「栄養サポートチーム」について，外科学総論では「栄養と輸液療法」について講義を行った．黒潮圏専攻では，2022年度物質解析手法特論を担当し，留学生4名を含む5人に対して講義を行った．一昨年度から，宮本特任助教が，栄養に関して講義を行っている．今年度から1年生「栄養学」の「食品と食事」，「栄養素のはたらき」を担当した．
 1. 三大栄養素，2. 微量栄養素と食物繊維
2. 卒業研究において2グループを受け持ち，実験研究を行った．
 - 2 グループ 研究テーマ：ユズ果皮を用いた足浴による生理学的効果
 - 16 グループ 研究テーマ：ユズ果皮加工食品の経口摂取による生理学的変化
3. 看護学専攻修士課程では，「成人・老人看護学特論 I」で2コマ，「健康環境論」で4コマ，実践助産学課程では，「助産診断・技術学基礎」で1コマ担当した．

【研究活動】

1. 『ユズ種子粉』に関する研究が，高知工科大学，馬路村農業協同組合，高知大学の3者で共同研究契約を令和3年12月1日に締結し開始となった．現在，高知工科大学にてユズ種子粉の残油をヘキサン法で抽出している．抽出されたユズ種子粉油に対して高知大学で安全性確認の動物実験を行っている．今後、機能性を確認する動物実験を行う予定である．
2. 『ゆずちゃんゼリー』，『百年源』を機能性表示食品として届け出るために関与成分に関する実験結果，臨床試験の結果をもとに論文作成を行い，すべて採択された．
3. 動物実験計画書を提出し，承認を受け実験を行った．
 - ・ 2022年6月28日（2022年5月23日付け）承認番号：第 P-00038
 - ・ 2022年10月31日（2022年9月5日付け）承認番号：第 P-00057
 - ・ 2022年11月17日（2022年10月12日付け）承認番号：第 P-00061

【社会活動】

－産学共同研究－

1. 馬路村農業協同組合と研究題目「ユズ成分の機能性に関する共同研究」にて共同研究契約を締結し共同研究を行っている（2021年4月1日～2024年3月31日）．
2. 馬路村農業協同組合と高知工科大学の3者で研究題目「『ユズ種子粉』が含有する機能性

物質の探索」にて共同研究契約を締結し共同研究を行っている（2021年12月1日～2023年3月31日）。

－広報－

1. 「高知大学医学部 概要・医学部附属病院 案内 2022 / 高知大学医学部の取り組み」取り組み07 共同研究講座「高知馬路村ゆず健康講座」 19頁（URL: [9.6gaiyoannai-hyoshiura \(kochi-u.ac.jp\)](http://9.6gaiyoannai-hyoshiura(kochi-u.ac.jp))）
2. 高知大学医学部 RESERCH シーズ集「ユズ成分の機能性探索と作用機序の解明」
<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/seeds/detail.html?id=724>
3. 『本学におけるSDGs取組事例集 Version4.0』「健康に貢献する「ユズ種子油」の効果」
高知大学SDGsAction (kochi-u.ac.jp)

－学会，講演－

1. 高知市文化振興事業団 企画事業課 主催 令和4年度秋『いきいきセカンド☆ライフ講座』火曜日コース 講義テーマ：『目からウロコ！ゆずパワーで健康な日々』，オーテピア高知図書館 4F ホール（2022.11.1）

【研究業績】

－論文－

1. 川村巧成，宮本美緒，浅野公人，溝渕俊二（2022）：ユズ果汁中のクエン酸とリンゴ酸がマウス腸内乳酸菌を増やす。Health Sciences 38（1）. 1-9.
2. 宮本美緒，浅野公人，川村巧成，北添範子，松浦梓，鎌田三砂子，炭谷由佳，渡邊憲和，松本泰典，東谷望史，溝渕俊二（2022）：非加熱ユズ種子油を含有した食品の経口摂取による血糖値改善効果－プラセボ対照二重盲検ランダム化並行群間比較試験－。薬理と治療 50（8）. 1447-56.
3. 宮本美緒，渡部嘉哉，川村巧成，松浦梓，北添範子，浅野公人，松本泰典，溝渕俊二（2022）：非加熱ユズ種子油が発揮する血糖値改善効果と脂肪肝予防の機能性成分はノミリンである。薬理と治療 50（11）. 1963-71.
4. 川村巧成，浅野公人，星澤真史，溝渕俊二（2023）： β -1,3-1,6-グルカンがRIN14B細胞を刺激しセロトニン分泌を誘導する－ β -1,3-1,6-グルカン誘導セロトニンによる便秘改善効果の可能性－ Health Sciences 39（1）. 1-8.

－学会発表－

1. 宮本美緒，浅野公人，渡部嘉哉，鎌田三砂子，炭谷由佳，伊與木美保，溝渕俊二（2022）：非加熱ユズ種子油が有する血糖値上昇抑制効果の年齢による差異。第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会。横浜。2022. 5. 31.

－その他－

1. 足利玲香，市川夏鈴，宮本美緒，渡部嘉哉，溝渕俊二（2023）：ユズ果皮を用いた足浴による生理学的効果。高知大学医学部 第22回 KMS Research Meeting。2023. 2. 23.（特別賞）

2. 溝渕俊二, 甲村莉子, 永森清夏, 山本真里恵, 宮本美緒, 渡部嘉哉 (2023) : ユズ果皮加工食品の経口摂取による生理学的変化. 高知大学医学部 第22回 KMS Research Meeting. 2023. 2. 23.

小児看護学領域

〔教員名〕 准教授：松本智津

【教育活動】

小児看護学では、常に“子どもと家族が主体である”ことを基盤の考えとしてもち、医療専門職としてのあり方や姿勢、知識や技術を養い、ケアや関わりの実践につなげることを目標としている。

学部教育では、2年生前期「小児看護学概論」、3年生前期「小児看護援助論」を担当した。子どもと家族に関する基本知識をもとに、健康問題をもつことが子どもと家族にとってどのような体験になるのかを考え、必要となるケアや関わりを考えることができるように授業を展開した。3年生の臨地実習では、健康問題をもつ子どもと家族のケアや関わりについて、既修の知識と体験を統合し、小児看護として、現象が説明できるような教育を行った。感染対策として、病棟に入れる学生数の制限があったことに加え対象との関わりは出来ずシャドウイングのみであったため、看護師への質問等を通して、実際の看護についての学びを深めた。また、実際に病棟で子どもと家族に行う関わりやケアは、学内で実践力を付けるためのロールプレイを行った。

大学院教育では、実践助産学領域の教育に携わり、子どもの視点から見て、そして母子・親子を考える思考過程を導き、それぞれの視点から考えることによって実践能力の向上にむけた教育を行った。

【研究活動】

○松本智津

若手研究「NICUにおけるフィジカルアセスメント教育の開発とその検証」の第1ステップに取り組んだ。

【社会活動】

○松本智津

- ・高知大学看護学会査読委員
- ・医学と生物学（Medicine and Biology）査読員
- ・高知県看護協会東部2地区支部委員
- ・高知県准看護師試験委員
- ・高知大学医学部附属病院ファミリーサポート委員会委員
- ・ボランティア活動
 1. 小鳩会総会での託児：学生2名とともに参加
 2. 山田特別支援学校中学部・高等部それぞれの修学旅行に学生各2名がボランティアとして参加（山田支援学校との調整、および学生へのオリエンテーション等を実施）

【研究業績】

—学会発表—

1. Chizu Matsumoto, Shionozaki Emiko (2022) : Minimum Physical assessment skill

required by newly assigned NICU nurses from the perspective of neonatal intensive care certified nurses. 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference, Held on the Web, 2022, April 21-22.

－その他－

1. 古林万緒, 赤羽菜摘, 小川舞, 佐藤鈴音, 松本智津 (2022) : 小児がんの告知前後における看護援助の実際. 第22回 KMS Research Meeting, オンライン (moodle, オンデマンド). (奨励賞受賞)

母性看護学領域

〔教員名〕 講師：吉村澄佳

【教育活動】

母性看護学では、女性とその子ども及び家族の健康・発達を支援するための対象理解と看護実践能力を養うことを目指し教授した。専門教育としては、「家族看護学」「母性看護学概論Ⅰ・Ⅱ」、「母性看護援助論」、「母性看護学実習」、「卒業研究」に関わった。本年度は実習で対象者と関わりが持てたものの、これまでの臨地実習経験が少ないことから、対話による情報収集や対象理解、アセスメント、の学生支援に努めた。また、探索的な思考を持てるよう、実習と並行して学生は文献検索を行いながら、疑問の解決、対象理解、看護支援の視点を豊かにできるよう学生の指導に努めた。

コロナ下での臨地実習の学生の対象理解について、実習受け入れスタッフとの共同研究を論文としてまとめ雑誌に発表した。今後の臨地教育での学生指導を一層充実できると考える。

【研究活動】

- ・ コロナ下での母性実習において学生の対象者像形成について研究をまとめた。
- ・ 母性看護演習における学生の技術の客観的評価について研究をまとめた。
- ・ 地域高齢者の睡眠愁訴と要介護認定発生の関連について研究をまとめた。

【社会活動】

—講義—

- ・ 国立病院機構高知病院附属看護学校「母性看護方法論・演習」（2022年9月20日・21日・22日・27日・29日・30日、計21時間）

—社会活動—

- ・ 中芸広域連合保健福祉課母児事例検討会アドバイザー（2022年5月31日、6月21日、7月26日、8月23日、9月27日、2023年1月11日、2月28日、3月14日）
- ・ 高知県性教育推進協議会委員

【研究業績】

—論文—

1. 吉村澄佳, 井上舜也, 齋藤美和, 山脇京子, 敷田幹文 (2022) : 妊婦シミュレーターを用いた腹部触診法の客観的評価：看護学生と経験者の比較. 母性衛生. 63 (2). 382-389.
2. 吉村澄佳, 野田ひろみ, 鍋島さおり, 山中智恵, 松高早紀江, 岡部愛, 川村美保 (2022) : COVID-19 下の看護対象者との関わりが制限された母性看護学実習での学生の対象者像の形成の実態. *International Nursing Care Research*. 21(2). 69-78.
3. Sumika Yoshimura, Ichiro Miyano, Nobufumi Yasuda (2022) : Associations of sleep duration with the incidence of needed support/long-term. *Archives of Gerontology and Geriatrics*. 101. DOI: 10.1016/j.archger.2022.104712

助産学領域

〔教員名〕 教授：石岡洋子（2月1日から）
准教授：濱田佳代子
講師：石岡洋子（1月31日まで）
助教：別府朋加（11月1日から）

【教育活動】

学部学生に対して初年次科目の「大学基礎論」，「学問基礎論」，「課題探求セミナー」，教養科目の「生命倫理学」，専門科目「卒業研究」を担当した。大学院母子看護学分野において，リプロダクティブ・ヘルス及びウィメンズヘルスに対するケア能力を習得し，すべてのライフステージにある女性を取り巻く文化・社会的な背景から次世代育成の課題を探索し，問題解決策を提案し得る人材の育成を目指し，オンラインと対面のハイブリッド式を用いたPBL型授業を行った。

実践助産学課程では，新型コロナウイルス感染症への感染予防を行いながら学内演習や助産学実習を行った。実習科目の「助産学実習Ⅰ」，「助産学実習Ⅱ」，「地域助産学実習」は新型コロナウイルス感染症拡大による県内のフェーズによる行動指針及び学内の教育研究活動の実施方針に則り，実施計画（安全対策を含む）を作成し，適切な手続きのもとに実施した。その結果，指定規則の分娩取り扱い基準を満たすことができた。

研究指導は，研究指導計画書を作成し実施した。修了生に対して修士論文の学会発表や学会誌投稿への支援を行った。

【研究活動】

○濱田佳代子
妊産褥婦のQOLアセスメントツール開発に関する研究に取り組んだ。

○石岡洋子
非妊時BMIと周産期予後の検討に関する研究を実施した。

【社会活動】

○濱田佳代子
－社会活動－
全国助産師協議会教育検討委員会委員
中芸広域連合保健福祉課母子事例検討会アドバイザー

○石岡洋子
－講義－
岡山大学大学院保健学研究科助産師リカレント教育「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム 21 妊婦の体重管理について（2022年9月16日）
－社会活動－
中芸広域連合保健福祉課母子事例検討会アドバイザー

【研究業績】

－論文－

1. 別府朋加, 関屋伸子, 濱田佳代子, 石岡洋子, 池内和代 (2023) : 分娩を取り扱わない部署への異動体験が助産師のキャリア形成に与える意味. 高知大学看護学会誌. 16 (1). 55-69.
2. Yoko ISHIOKA, Hiroyuki YAMASHITA, Kinya HAMAGUCHI, Yoshitaka KUWAHARA, Kaoru NAKAMURA, Mikiya NAKATSUKA (2022) : Gestational Outcomes and Birth Weight in Japanese Women at the Upper and Lower limits of the Normal BMI range. Acta Medica Okayama. 76 (5). 519-526.

精神看護学領域

〔教員名〕 教授：大坂京子

講師：高橋美美

【教育活動】

精神看護学ではあらゆる発達段階および健康水準の個人と集団を対象に、心（精神）を中心とした健康を維持・増進する看護を展開できる能力を育成することを目標とした。精神保健学を基盤に人間関係，社会動向，精神疾患の基礎的知識と技術について教授している。

学部教育では，1年次「コミュニケーション論」にて，看護の基盤となる対象理解や自己理解を中心としたコミュニケーション技術の履修を目指し，段階的に取り組めるように演習課題を組み込んでいる。2年次「精神看護学概論」では，精神の健康と障害および精神保健看護の担う役割と課題，精神保健医療福祉の歴史や制度の変遷，人権擁護について教授した。3年次の「精神看護援助論」「精神看護学実習」では精神科看護を主眼に，リハビリやストレスの視点を含めた多様な側面から捉える患者理解の実践，退院後の地域生活を見据えたアセスメントや看護計画立案について学習できるように展開した。新型コロナウイルス感染症に対する対策をとりながら，適宜オンラインによる授業や実習形態の変更を行い，実習病棟との連携を図った。

【研究活動】

○大坂京子

認知症の高齢者，統合失調症慢性期の患者を対象にロボットコミュニケーションの効果を確認するとともに，看護師を含む医療職者がロボットを効果的に使用方法について研究した。

○高橋美美

研究活動では，臨床と看護教育とのつながりを意識しながら，精神看護の基本をどのように教授できるのかについて探究的に取り組む準備段階となった。

【社会活動】

○大坂京子

—学術活動・社会貢献—

- Advisory Broad Member, The Rozzano Locsin Institute (RLI) for the advancement of Technological Competency as Caring in Nursing and Health Sciences.
- 4th TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING IN THE HEALTH SCIENCEAS 2022, Organizing Committee
- Reviewer for 2023 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII2023) Georgia Institute of Technology, Atlanta, GA, USA, Special Session on“Assistive Devices for Improving Quality of Life of People and for Reducing their Labor Burden”
- Peer reviewer for MDPI (Multidisciplinary Digital Publishing Institute)
- 看護薬理学会カンファレンス 2022 in 高知，シンポジウム 座長

- ・ 令和4年度 看護系大学教員向け 課題解決型研修 千葉大学

○高橋美美

－社会活動－

- ・ 日本精神科看護協会高知県支部 査読委員
- ・ 国家資格登録 キャリアコンサルタント

【研究業績】

－論文－

1. Betriana F, Tanioka R, Kogawa A, Suzuki R, Seki Y, Osaka K, Zhao Y, Kai Y, Tanioka T, Locsin R. (2022): Remote-Controlled Drone System through Eye Movements of Patients Who Need Long-Term Care: An Intermediary's Role. *Healthcare*. 30;10(5):827. doi: 10.3390/healthcare10050827
2. Osaka K, Matsumoto K, Akiyama T, Tanioka R, Betriana F, Zhao Y, Kai Y, Miyagawa M, Tanioka T, Locsin RC. (2022): Investigation of Methods to Create Future Multimodal Emotional Data for Robot Interactions in Patients with Schizophrenia: A Case Study. *Healthcare (Basel)*. 5;10(5):848. doi: 10.3390/healthcare10050848
3. Soriano GP, Yasuhara Y, Ito H, Matsumoto K, Osaka K, Kai Y, Locsin R, Schoenhofer S, Tanioka T. (2022): *Robots and Robotics in Nursing*. *Healthcare*. 18;10(8):1571. doi: 10.3390/healthcare10081571
4. Akiyama T, Matsumoto K, Osaka K, Tanioka R, Betriana F, Zhao Y, Kai Y, Miyagawa M, Yasuhara Y, Ito H, Soriano G, Tanioka T. (2022): Comparison of Subjective Facial Emotion Recognition and "Facial Emotion Recognition Based on Multi-Task Cascaded Convolutional Network Face Detection" between Patients with Schizophrenia and Healthy Participants. *Healthcare*. 24;10(12):2363. doi: 10.3390/healthcare10122363
5. Kai Y, Seki Y, Suzuki R, Kogawa A, Tanioka R, Osaka K, Zhao Y, Tanioka T. (2023): Evaluation of a Remote-Controlled Drone System for Bedridden Patients Using Their Eyes Based on Clinical Experiment. *Technologies*. 11(1):15. <https://doi.org/10.3390/technologies11010015>
6. Tanioka R, Osaka K, Ito H, Zhao Y, Tomotake M, Takase K, Tanioka T. (2023): Examining Factors Associated with Dynapenia/Sarcopenia in Patients with Schizophrenia: A Pilot Case-Control Study. *Healthcare*. 25;11(5):684. doi: 10.3390/healthcare11050684

－学会発表－

1. Kyoko Osaka, Soriano P. Gil, Blaquera Paulo L. Allan, Baua Elizabeth, Tetsuya Tanioka, Schoenhofer Savina and Ray A. Marilyn (2022): Christian Worldview and Caring in Nursing. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec.

- 10-11.
2. Noriko Taniuchi, Kyoko Osaka (2022): Perception of caring in nursing by clinical nursing instructors in Japanese hospitals. Qualitative Research. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
 3. Bollos Leah, Zhao Yueren, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Kyoko Osaka, Tetsuya Tanioka and Hideki Otsuka (2022): Examination of Items Necessary for the Development of the "Technological Competency as Caring in Medicine Instrument (TCCMI). 10-11. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
 4. Takashima Yoshiyuki, Blaquera Paulo Allan, Nakano Yoko, Yokotani Tomoya, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Kyoko Osaka, Kataoka Mutsuko and Tetsuya Tanioka (2022): Clarification of Item Within the Technological Competency as Caring in Nursing Instrument Revised (Perception Dimension) Among Psychiatric Nurses. 10-11. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
 5. Akiyama Toshiya, Soriano Gil, Blaquera Paulo Allan, Yuko Yasuhara, Hirokazu Ito, Kazuyuki Matsumoto, Zhao Yueren, Kyoko Osaka, Tanioka Ryuichi, Kai Yoshihiro and Tetsuya Tanioka (2022): Inter-Rater Reliability Between the Results of Human Judgments of Emotions and those of Empathy. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
 6. Nakano Yoko, Yokotani Tomoya, Takashima Yoshiyuki, Yuko Yasuhara, Hirokazu Ito, Kyoko Osaka, Kataoka Mutsuko and Tetsuya Tanioka (2022): The Survey for Nurse Managers Perception and Practice Status on Theory of Technological Competency as Caring in Nursing (TCCN) a Psychiatric Hospital. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
 7. Tanioka Ryuichi, Kyoko Osaka, Hirokazu Ito, Zhao Yueren, Masahito Tomotake and Tetsuya Tanioka (2022): Examining Risk Factors for Dynapenia and Sarcopenia in Patients with Schizophrenia. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
 8. Yokotani Tomoya, Nakano Yoko, Tanioka Ryuichi, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Kyoko Osaka, Sekido Keiko, Tetsuya Tanioka and Locsin C Rozzano(2022): The Issues to Develop a Caring Education Program for Physical Therapists Based on the Theory of Technological Competency as Caring in Nursing: Literature Review. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS

- CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
9. Sato Miki, Tanioka Ryuichi, Betriana Feni, Kyoko Osaka, Zhao Yueren and Tetsuya Tanioka (2022): The Characteristics of Sleep and Autonomic Activity Cases in Active Older Adults Who Are Younger Than Their Age: Comparative Case Study. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES. 2022 Dec. 10-11.
 10. Akiyama Toshiya, Kazuyuki Matsumoto, Kyoko Osaka, Tanioka Ryuichi, Yuko Yasuhara, Hirokazu Ito, Soriano Gil, Blaquera Paulo Allan, Kai Yoshihiro and Tetsuya Tanioka (2023): A pilot case study for developing a software for human emotion recognition using multimodal data. 2023 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII) .2023 Jan 17-20.
 11. Kyoko Osaka, Shimomoto Rie, Tanioka Ryuichi, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Kai Yoshihiro and Tetsuya Tanioka (2023): Differences in healthcare professionals' perceptions of robots usefulness, challenges, cautions, ethical issues, and intermediary roles by the experience of robot use. IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII) .2023 Jan 17-20.

地域看護学講座

高齢者看護学領域

〔教員名〕 准教授：田淵啓二（9月30日まで）

助教：林 昌子

【教育活動】

高齢者看護学では、高齢化する社会のケアニーズに対応し、高齢者とその家族の QOL 向上に資する学生を育成するために「高齢者看護学概論」「高齢者看護学援助論」「高齢者看護学実習」を学部教育として担当した。過疎高齢化が進む地域を志向した高度な看護実践応力を身に着けることを目指し、地域包括ケアを学ぶことを目的とした看護師実践能力育成科目の「地域生活者支援概論」、「地域生活者支援実習」も担当し指導を行った。学部教育としては他にも、「統合分野実習」の実習指導を担当、「公衆衛生看護論Ⅱ」「原著購読」「卒業論文」「学問基礎論」「大学基礎論」「健康 C」「地域看護学」「生活援助技術論Ⅲ」の講義と指導の一部を担当した。

大学院では「成人・老人看護学演習」「成人・老人看護学特論Ⅰ」「成人・老人看護学特論Ⅱ」「地域健康支援演習」講義の一部を担当した。

【研究活動】

○田淵啓二

慢性疾患を持ちながら地域で生活する人への援助に関する研究
医療とソーシャルキャピタル

○林 昌子

在宅生活が維持できている脳卒中高齢者に関する研究
地域包括ケアを志向した看護教育に関する研究

【社会活動】

○田淵啓二

・ 日本腎臓リハビリテーション学会 代議員

○林 昌子

－講義－

・ 准講会講師派遣事業、高知県大豊町地域福祉課主催 スキルアップ研修「高齢者の対応を考えよう ～認知症高齢者への言葉がけを振り返って～」(2022年9月3日)

－社会活動－

・ 徳島県三好市社会福祉協議会を中心に介護士等への認知症高齢者ケアの学習会「ユマニチュードを学ぼう会」開催

【研究業績】

－論文－

1) 小林敏生, 田淵啓二, 乗越健輔 他(2022): 自然豊かな地方への滞在型転地勤務がもたらすメンタルヘルスおよび QOL への影響—IT 企業社員を対象とした検討. 日本ヒューマン

ヘルスケア学会誌 7(2): 39-49

2) Suzumi Okuda, Miwako Tunematsu, Keiji Tabuchi et.al. (2022) :A New Health Promotion Program That Includes Wadaiko Rhythm Exercise to Maintain the Health of Persons Excluded from Receiving Specific Health Guidance. International journal of environmental research and public health 19 (14) . 1-12.

—学会発表—

1. 山野上慈, 田淵啓二, 奥谷文乃 (2022) : 看護師における電子カルテの円滑な操作を阻害する困難感の要因. 第17回高知大学看護学会.南国市. 2022.

公衆衛生看護学領域

〔教員名〕 教授：奥谷文乃

准教授：杉本加代

講師：齋藤美和

【教育活動】

公衆衛生活動の活動分野は主として地域・産業・学校であり、それぞれ多職種との協働により保健活動は推進される。保健師資格取得希望者のみならず看護師として最低限身につけておくべき公衆衛生看護学に関連する知識・技術を各学年に応じて教授した。学生は、保健師資格取得希望の有無を2年年度末に決定し、4年生で公衆衛生看護学実習を行う。

令和4年度の2年生のうち保健師育成コースを希望した学生数は33名であり、定員30名を超えたため保健師育成コース選抜試験を実施した。

令和4年度の実習履修者数は25名であり、実習場所は行政や企業に加えて学校での実習を初めて行った。行政のうち市町村での実習場所数は14ヶ所にわたり、学生は宿泊しながら実習をすることもある。令和4年度からは、実習中の学生の不安軽減や疑問解消のために、担当教員がオンラインによるカンファレンスを行う新たな取り組みを始めた。

【研究活動】

○奥谷文乃

ヒトにおける脳内嗅覚情報処理過程

嗅覚障害の新規の治療法

○杉本加代

大腸がん検診受診

○齋藤美和

保健師教育及び人材育成

養護教諭に関する研究

【社会活動】

○奥谷文乃

－講義－

- ・ 高知県立大学社会福祉学部：「医学概論」（15回）
- ・ 高知リハビリテーション専門職大学：「生理学」（15回）「耳鼻咽喉科学」（15回）「聴覚医学概論」（4回）「呼吸発声発語系医学」（4回）「言語聴覚士に必要な耳鼻咽喉科の知識」（2回）
- ・ 龍馬看護ふくし専門学校看護学科：「臨床医学」（7回）
- ・ 高知県立東高校看護専攻科：「耳鼻咽喉科疾患の看護」（4回）

－社会活動－

- ・ 高知県地域・職域連携検討専門部会 部会長

○杉本加代

－講義－

- ・ 高知県立高知東高等学校看護専攻科「公衆衛生学」（2022年10月24日，10月31日，11月14日，11月28日：計10回）
- ・ 高知県立高知東高等学校看護専攻科「コミュニケーション論」（2022年8月29日，9月5日，9月12日，9月26日，9月30日，12月19日，2023年1月16日，1月23日，1月30日，2月6日：計30回）
- ・ 独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校「公衆衛生学」（2022年8月26日，9月1日，9月9日：6回）
- ・ 高知中央高等学校専攻科「在宅看護方法論」（2022年10月18日，10月25日，11月1日，11月9日，11月16日，11月29日，12月6日：計7回）

－社会活動－

- ・ 高知県嶺北広域行政事務組合要介護認定審査会 委員（通年で月1～2回の審査を実施）
- ・ 高知県嶺北広域行政事務組合障害程度区分認定審査会 委員（通年で月1～2回の審査を実施）
- ・ 2022年度須崎福祉保健所管内保健福祉活動報告会準備研修会：2023年2月7日，報告者6名に対する個別指導およびプレゼン全般に関する講義を行った。
- ・ 2022年度須崎福祉保健所管内保健福祉活動報告会：2023年3月8日，報告に対する講評を行った。
- ・ 2022年度中央西福祉保健所市町村保健福祉関係職員研修会に向けた準備研修会：2022年12月9日，報告者9名に対する個別指導およびプレゼン全般に関する講義を行った。
- ・ 2022年度中央西福祉保健所市町村保健福祉関係職員研修会：2023年3月1日，報告に対する講評を行った。

○齋藤美和

－講義－

- ・ 高知県立高知東高等学校専攻科：「公衆衛生学」（2022年10月3日，10月17日，10月24日，11月7日，11月21日，11月28日（計50分×18回）
- ・ 独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校：「公衆衛生学」（2022年7月12日，8月30日，9月6日，9月13日 計90分×8回）

－社会活動－

- ・ 高知県保健師人材育成評価検討会 2回：保健師の人材育成について企画・検討を行った。（2022年7月8日，2023年3月15日）
- ・ 高知県新任期保健師研修会（1～4年目対象）計4回：参加者がそれぞれのキャリアラダーに沿った課題を提出し意見交換を行う。それに対し助言・指導を行った。本来8回実施されるが，中止や日程変更に伴い参加できない日があった。（2022年11月4日，12月13日，12月16日，2023年2月6日）
- ・ 高知県保健活動評価研修：講義，ファシリテーション，コンサルテーションをweb中心で行い中堅期の保健師の人材育成を行った。（2022年6月7日，6月21日，7月12日，7月28日，11月8日，12月2日，2023年2月21日）

【研究業績】

－著書－

奥谷文乃: リハビリテーション治療（嗅覚刺激療法）. 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域のリハビリテーション医学・医療テキスト. 141-143. 一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構. 2022

－論文－

1. 杉本加代, 前田留那, 松井春花 (2023) : COVID-19 流行下における地域在住高齢者の外出頻度と新型コロナウイルス感染の不安感との関連. 四国公衆衛生学会雑誌. 68(1). 61-67.
2. 津長雄太, 杉本加代, 阿波谷敏英 (2022) : 平時からの信頼関係構築が災害発生後の地域包括ケアシステムの早期復興の鍵. 月刊地域医学. 36(12). 52-60.
3. 吉村澄佳, 井上舜也, 齋藤美和, 山脇京子, 敷田幹文 (2022) : 妊婦シミュレーターを用いた腹部触診法の客観的評価：看護学生と経験者の比較. 母性衛生. 63 (2) . 382-389.

－シンポジウム－

- 1) 奥谷文乃: 日韓台シンポジウム 1; Reversible Effects of Olfactory training. 第 61 回日本鼻科学会総会・学術講演会. 石川県金沢市(ハイブリッド開催), 2022.10.13～10.15.

－その他－

1. 奥谷文乃: 日本味と匂学会 2022 年功労賞受賞
2. 杉本加代: 4 年制大学の看護学生のスマホ依存とコミュニケーションスキルとの関連性, 高知大学医学部 第22回 KMS Research Meeting 2023.2.23

在宅看護学領域

〔教員名〕 講師：小笠原木綿

助教：柴田優里絵

【教育活動】

在宅看護学領域では、地域で健康問題をもちながら生活する人々とその家族を統合的に理解し、QOLを維持、向上させる自立・自律にむけた生活支援ができるよう在宅看護を展開するための知識と技術の取得を目指す。学部教育として2年後期で「在宅看護概論」、3年前期で「在宅看護援助論」、3年後期「在宅看護学実習Ⅰ」を担当した。3年後期「在宅看護学実習Ⅰ」の臨地実習においては、訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所で学び、個別ケアから家族の看護及び地域包括ケアが必要である現状を捉えることができる学習支援方法とした。4年前期「統合看護実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ」も担当し指導を行った。在宅看護学実習Ⅱでは、入退院支援センター・地域医療連携室で多職種協働の重要性や地域連携の実際について学んだ。

【研究活動】

○小笠原木綿

訪問看護師の業務上の負担感に関する要因の研究

○柴田優里絵

養護教諭が抱く職務上困難感に関する研究

学校に在籍する医療的ケア児への支援に関する研究

【社会活動】

○小笠原木綿

・ 高知大学希望創発センター 兼務教員（毎月1回/月開催）

・ 高知大学看護学同窓会：記念品担当

・ 高知看護教育研究会：会計担当

○柴田優里絵

・ 高知大学看護学同窓会：交流会担当

【研究業績】

－学会発表－

1. 小笠原木綿，柴田優里絵（2022）：訪問看護師の業務上の負担感に関する要因の研究～コロナ禍でのアンケート調査の結果から～. 第12回日本在宅看護学会学術集会. 東京 web.

－その他－

1. 小笠原木綿：高知大学希望創発研究会. 「つながり」と「ひとり」のバランス～つながることは本当にいいこと～. チーム1運営担当教員活動（2023年3月）.

V. 研究助成金取得状況

1. 学内特別研究費

- ① インセンティブ経費
該当なし

② その他の研究助成金

年度 (研究期間)	種類	研究課題	実施責任者	実施担当者
令和4年度(1年間)	令和4年度教育研究活性化事業経費	COVID-19 禍の新しい看護教育の様式－卒業生への調査から－	<u>大坂京子</u>	<u>山脇京子</u> <u>下元理恵</u>

2. 学外研究費

① 科学研究費補助金

年度 (研究期間)	種類	研究課題	研究代表者	研究分担者
令和4年～令和6年(3年間)	基盤研究(C)	辛味感受性の遺伝的背景がもたらす食嗜好・食行動の解明	村田芳博	<u>奥谷文乃</u>
令和2～令和5年度(4年間)	基盤研究(C)	認知症早期診断のスクリーニング検査としての嗅覚検査に関する研究	樫林哲雄	<u>奥谷文乃</u> 上村直人 米田哲也 數井裕光
令和2年～令和4年(3年間)	基盤研究(C)	アトピー性皮膚炎患者の皮膚バリア機能促進支援モデルの開発	<u>山脇京子</u>	<u>溝渕俊二</u> <u>佐野栄紀</u> <u>佐藤美樹</u> <u>竹村多加</u>
令和2年度～令和5年度(4年間)	若手研究	活動的な高齢者の睡眠と律神経活動に着目した看護介入モデルの開発	<u>佐藤美樹</u>	
令和3年～令和5年(3年間)	基盤研究(C)	会陰保護の手技習得のためのシミュレーション教材の開発	<u>吉村澄佳</u>	豊永昌彦 森 雄一郎

令和3年～令和5年(3年間)	基盤研究(C)	妊産婦の個別的 QOL アセスメントツールの開発	<u>濱田佳代子</u>	中塚幹也 前田長正 関屋伸子
令和4年度～令和6年度(3年間)	基盤研究(C)	シエラレオネ国農村部で子どもから地域住民へと育む持続可能な栄養改善のしくみ作り	<u>藤井千江美</u>	
令和3年～令和5年(3年間)	基盤研究(C)	在宅における慢性心不全患者の栄養評価学習プログラムの開発	<u>下元理恵</u>	山中福子 久保亨
令和2年～令和5年(4年間)	基盤研究(C)	心不全重症化予防に向けたアウトカム評価に基づく患者教育連携プログラム	山中福子	<u>下元理恵</u>
令和3年～令和5年(3年間)	基盤研究(C)	知られていない第三の栄養不良からみたヨード欠乏による甲状腺機能低下症	下嶽ユキ	菅沼成文 <u>下元理恵</u> 南まりな 小森香
令和3年～令和6年(4年間)	基盤研究(C)	学士課程から始める急性期人工呼吸器ケア自立学習支援教材プログラムの開発と評価	二本柳圭	谷口将志 寺島修 寺内英真 <u>下元理恵</u> 栞子嘉美 池田恵美子 仲道雅輝
令和4年度～令和6年度(3年間)	基盤研究(C)	学校での医療的ケア児への支援における養護教諭と看護師の連携の実態と困難要因	<u>柴田優里絵</u>	<u>山脇京子</u> <u>齋藤美和</u>

② 産学官共同研究助成金

年度(研究期間)	研究課題	研究代表者	共同研究先/共同研究者
令和3年12月～5年3月(1年4ヶ月)	『ユズ種子粉』が含有する機能性物質の探索	<u>溝渕俊二</u>	馬路村農業協同組合/北岡雄一 高知工科大学/松本泰典

令和 3～5 年 度 (3 年間)	ユズ成分の機能性に関する共同研究	<u>溝渕俊二</u>	馬路村農業協同組合/北岡雄 一
----------------------	------------------	-------------	--------------------

③ その他の研究助成金

該当なし

VI. 看護学科運営に関する委員会・活動報告

1. 委員会構成

1) 改革推進のための戦略的委員会

- ・教育・学習評価委員会
- ・地域協働推進委員会

2) 個別取組の実行委員会

【教育活動】

- ・実習検討委員会
- ・キャリア支援委員会
- ・国試支援担当者会
- ・卒業研究支援委員会
- ・入試委員会
- ・OSCE 検討委員会

【研究活動】

- ・高知大学看護学会委員会
(看護学会役員会／看護学会準備委員会／看護学会誌編集委員会)

【組織活動】

- ・教育・研究 FD 委員会
- ・看護学科看護部連携協議会
- ・入試広報委員会
- ・国際連携推進委員会 (台湾大学)
- ・看護学科災害対策推進委員会
- ・親睦会

2. 委員会活動報告

1) 改革推進のための戦略的委員会

教育・学習評価委員会

〔メンバー〕 高橋美美（委員長）、齋藤美和、林昌子、藤井千江美

【目的】

学生の卒業時コンピテンシーを評価する看護実践能力と 10+1 の活用を促進し、e-ポートフォリオ全体の教育・学習への活用につなげる。

【活動概要】

1. 「看護実践能力」の入力と活用促進（新学期オリエンテーション時・4年生科目終了時）
入力状況としては、2年生 65/67 人、3年生 69/71 人、4年生の3年次評価 68/71 人、4年次評価 65/71 人と休学者を除き、9割を超える入力となった。前年度にほぼ全員が評価入力できており、今回は入力時に結果集計を提示しながら実施することができた。
2. 10+1 パフォーマンス評価（教員・学生）への入力促進（3年生領域別実習後・4年生統合分野実習後）
実習科目担当教員の協力が得られ、3年生、4年生ともほぼ全員の相互評価を実施することができている。

3. 学習・教育活用のための情報提供

令和4年度4年生の結果集計について、学科会議で報告した。全体的にはコロナ禍の影響が少なかった令和2年度4年生に近い形で順当に習得できている到達状況であった。しかし、【対課題】【対人・対自己】に関しては、臨床での実習がままならなかった令和3年度4年生に近い到達結果となった。

【今後の課題】

新カリキュラム移行期として、またコロナ禍の影響について情報提供できるように、看護実践能力ならびに 10+1 パフォーマンス評価の入力促進を継続して行なっていく。また必修科目担当教員による授業評価が開始となるため、実施支援と安定した次年度以降の運用に向けた検討をしていく必要がある。

地域協働推進委員会

〔メンバー〕 濱田佳代子（委員長）、林昌子

【目的】

看護学科（教員・学生）と、県下の関係機関の連携・協働を促進し、下記のミッションに取り組む。

1. 地域協働の推進（安田町交流促進）イベント参加と町報誌への健康関連記事掲載
2. 学生の自主性を生かした取り組み（ボランティア活動の促進等）

【活動概要】

1. 安田町交流促進

毎年 11 月に行われている「安田町健康・福祉ふれあいまつり」はコロナ禍のため中止となった。

2. 安田町の町報に健康関連記事の連載を行った。10 月から 3 月まで 6 人の教員が対応した。

【今後の課題】

安田町交流促進について、学生のボランティア活動を中心に住民からの評価も高いため、継続していく。

【教育活動】

実習検討委員会

〔メンバー〕 松本智津（委員長）石岡洋子，笹岡晴香，田淵啓二，齋藤美和，吉村澄佳，高橋美美，竹村多加，小笠原木綿

【目的】

1～4 年次までの看護学実習が効果的に展開できるように、臨地実習の共通基盤となる事柄に関して企画・運営する。また、学生の実習効果が得られるよう、実習機関である医療福祉教育機関などと連携を取り、よりよい学習環境の実現に向けて調整を行う。

【活動概要】

実習検討会の役割遂行に向け、年度初めから活動できるように役割を早期に決定し、「実習の手引き」「領域実習オリエンテーション企画・実習配置表の調整」「事故・感染対策対応」「統合実習関連」「スチューデント・ナース（以下 SN）認定証授与式」「実習連絡会」について、役割を確認した。以後、計 14 回の委員会会議を実施し、実習状況・学生の情報について意見交換し、実習展開に必要な教育的支援についての検討を進めた。

SN 認定授与式を、医学部長，病院長，看護部長（オンライン），学生課長臨席のもと 9 月 5 日（月）対面で実施する。その後実施した、臨地実習オリエンテーションでの看護部からのオリエンテーションはオンラインでの実施となった。

今年度は引き続きコロナ禍にあり、実習の実施にあたっては、医学部としての方針を基、学科長と共に看護部，病院感染管理部，保健管理センター，学生課と調整を行い、実習実施に向けての感染対策指針を修正・作成した。実習前には、看護部から提示された「高知大学医学部附属病院での実習における新型コロナウイルス感染対策指針」と共に実習に向けての感染対策や健康管理についての説明を行い、各診療科の許可のもと実習が開始となった。また、実習に臨むにあたっては、医学部が実習生に向け作成した「プロフェッショナリズムについて」「新型コロナウイルス感染対策（オミクロン流行編）」を視聴することが必須とされ、医療従事者として感染対策への意識を高め実習に臨むよう指導を行った。

3 年生の領域実習開始前、IMIS の PW 記載用紙紛失者が数名いることが発覚し、重要書類についての説明を行い、重要書類ファイルの作成を説明した。また、半数の学生が病棟実習の経験がなかったため、情報処理センター畠山先生から、情報管理について及び IMIS 使用方法についての講義時間を設け実施した。

病棟実習に際しては、一度に病棟に入る学生数の制限や、対象者との接触時間等に制限はあったが、9月以降開始の領域実習からは、概ね病棟実習を実施することができた。病棟実習中止実施状況としては、クリティカル実習と基礎看護学実習Ⅱが全面中止となり、統合看護実習は4日目以降の実習が、領域実習は、一部中止となる期間があった。

コロナ禍以降対面で実施ができていなかった、附属病院看護部との「実習連絡会」を3月22日（水）に開催し、今年度の振り返りと次年度に向けての話し合いを実施した。

キャリア支援委員会

〔メンバー〕 小笠原木綿（委員長）、佐藤美樹、高橋美美、下元理恵

【目的】

1. 学生が主体的に進路選択および就職試験、進学などの準備ができるよう支援を行う。
2. 卒業生と母校のつながりの強化を図り、キャリア形成を支援する。

【活動概要】

キャリア支援委員会の役割は、ホームカミングデー、進路ガイダンス、その他就職・進学支援に関する事業などを企画実施することである。2022年度も新型コロナウイルス感染症のため多くの行事に変更や中止があった中で、以下の活動を行った。

1. 看護学科4年生の学生希望に応じて、進学や就職先への提出書類の添削、面接の練習、実技練習などの就職試験の支援を行った。併設している附属病院の受験者に対しては、点滴や薬液のアンプルカット手技の練習をして受験に臨むように指導した。
2. 看護学科4年生に対して進路に関する情報について、随時 Teams 等を通して情報提供を行った。また、7月と11月に進路情報収集を行い、進路が定まらない学生に対してはアドバイザー教員や卒論担当教員と連携・連絡をとり、希望者には個別に支援を行った。進路の把握は Teams を活用した。
3. 看護学科3年生をメインターゲットとし、インターンシップや病院訪問のサポートを行うとともに、進路ガイダンスをマイナビの動画8月～3月にかけて見てもらいながら支援した。（スタートアップ講座49名、選考対策前編43名、選考対策37名）視聴した。
4. 卒業生と母校の繋がりの強化を図り、キャリア形成を支援する取り組みを行った。6月に卒業生（新人看護師）3名が母校を訪問し、リフレッシュすることでリアリティーショックの緩和やキャリア形成を支援した。
5. 神戸市民病院機構看護職員採用の特別推薦選考の支援を行った。

【今後の課題】

- ・高知県内に就職・進学する卒業生の増加を目指す。附属病院の就職支援の充実を図る。
- ・学部（1年生）から就職関係や進学方法の充実や情報発信を行い、学部の就職支援を継続・強化していく必要がある。
- ・卒業生との交流、母校のつながりの強化を図り、キャリア形成体制の発展を目指す。

国試支援委員会

〔メンバー〕 齋藤美和（委員長），杉本加代，柴田優里絵

【目的】

看護学科 4 年生の看護師及び保健師国家試験の全員合格である。

【活動概要】

1. 国試対策説明会（4 月）
2. 国試対策に関する情報提供（5 月～1 月）
3. 学習室運用管理（6 月～2 月）：新型コロナ感染対策
4. 看護師・保健師国試模試および模試成績返却時指導（10 月～1 月）
5. 国試対策補講（12 月）
6. 看護師・保健師国試引率（2 月）：新型コロナ禍における対応として実施

【活動結果】

看護学科 4 年生の全員が，看護師及び保健師国家試験に合格した。

【今後の課題】

看護学科 4 年生には，模試実施や模試成績によるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを継続する。

卒業研究支援委員会

〔メンバー〕 森木妙子（委員長），笹岡晴香，齋藤美和，林昌子，藤井千江美

【目的】

卒業研究論文作成過程が円滑に進むように，卒業研究論文スケジュールを作成し，指導教員及び関連部署との調整を行う。

【活動概要】

1. 2022 年度卒業研究論文の取り組み
 - 1) 卒業研究の質向上を図るために，「卒業研究中間発表会」を 9 月 20 日に Teams 同期型オンラインで開催し，全 16 グループが発表を行った。事後のアンケート結果より，93%の回答者から卒業研究を進めていく上で役に立ったとの回答を得た。
 - 2) 卒業研究論文は，論文集を作成し看護学科教員に CD-R で配布した。
2. 2023 年度卒業研究論文への取り組み
 - 1) 卒業研究に取り組む学生を対象とした「卒業研究のための臨床研究講習会」を次世代医療創造センターに講義を依頼し，2023 年 2 月 18～28 日までオンデマンドで行った。
 - 2) 学生の関心領域を中心にグループ編成を行い，最終的に全 16 グループとなった。

【今後の課題】

早期から研究に関心を持つように 3 年生も含めた他学年にも「卒業研究中間発表会」の参加を促す。

入試委員会

〔メンバー〕 溝渕俊二（委員長）、山脇京子、大坂京子

【目的】

入学試験の円滑な実施運営を図ることを目的とする。

【活動概要】

今年も一般選抜（前期（定員 27 人）・後期（定員 6 人））、学校推薦型選抜 I（定員 27 人）試験を行い、60 人が入学した。第 3 年次編入学（定員 10 人）に関しては、10 人が入学した。入試自体は問題なく終えた。

【今後の課題】

推薦入試 I の出願資格を調査書全体の評定平均点が 3.8 以上の者を 4.0 以上に変更し、選抜方法の総合問題を小論文に変更して 2 年目である。試験倍率は 3.3 倍から 2.3 倍に低下したことから、今後の試験の在り方について検討する必要がある。

来年度から、共通テストの外国語の選択が「【外国語】英・独・仏・中・韓から 1」から、英語のみに変更になった。

OSCE 検討委員会

〔メンバー〕 下元理恵（委員長）、大坂京子、山脇京子、佐藤美樹、松本智津、竹村多加

【目的】

臨床に必要な看護判断・看護技術・態度・コミュニケーションの到達度に関して試験の計画・実施・評価を行う。

【活動概要】

2022 年 4 月から計 6 回の委員会を対面で実施し、OSCE 実施に向けて検討を行った。

対象は 4 年生とし、実習検討委員会と協同して統合看護実習の成績評価に含め実施した。

新型コロナウイルス感染症の拡大と影響を考え、高知大学医学部附属病院看護師の模擬患者としての協力は断念し、モデル人形を使用した試験内容を計画し、実施した。

【今後の課題】

評価基準と評価者間の評価の偏りが生じないようにする取り組みが必要である。

高知大学看護学会委員会

〔メンバー〕大坂京子（委員長），笹岡晴香（学会開催委員長），濱田佳代子（学会誌委員長），佐藤美樹，齋藤美和，下元理恵，吉村澄佳

看護学会役員会

【目的】

高知大学看護学会役員会は，資産管理，予算・決算，会則および諸規定の改正・制定・廃止を審議すると共に，学会の運営一切に責任を持つ。

【活動概要】

教員の異動があり，役員会の開催に遅延が生じたが，下記の通り役員会および学会を開催した。

1. 9月第1回役員会を開催し，第17回高知大学看護学会をweb開催する由，方針を決定した。
2. 11月第2回役員会をZoomによるオンラインで開催し，第17回高知大学看護学会の企画概要の方針を決定した。

【今後の課題】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し，webか対面による開催方法の検討を行うと共に学会の充実と参加者の増加を目指す必要がある。

看護学会準備委員会

【目的】

第17回高知大学看護学会の開催に向けて，その目的が達成される企画運営及び評価を行う。

【活動概要】

1. 第17回高知大学看護学会概要
 - 1) 日時：2022年11月12日（土）（web開催）
 - 2) メインテーマ：「コロナ禍における医療者のメンタルヘルス」
 - 3) 第17回高知大学看護学会開催
 - ①学会長挨拶
 - ②医学部長挨拶
 - 4) 講演
講演：「コロナ禍における医療者のメンタルヘル」
講師 福島県立医科大学医学部災害心の医学講座
准教授名 瀬藤乃理子先生
 - 5) 一般演題研究発表：示説（pdf掲示）（ポスター発表1演題）
2. 学会参加者：85名
3. 看護学会準備委員の開催：合計2回

【今後の課題】

- ・学会申し込みや視聴の際にスマホ対応可能ができるようなツールやシステムの充実を

図る.

- ・外部への広報活動の充実を図る.

看護学会誌編集委員会

【目的】

高知大学看護学会誌を編集し刊行する.

【活動概要】

1. 高知大学看護学会誌第 16 巻第 1 号を発行した.
2. 本号は、原著 4 編、報告 1 編および 2021 年 11 月 13 日に開催された第 16 回高知大学看護学会の報告からなっている.

【今後の課題】

- ・投稿数が増えるように情報発信をする.
- ・査読過程の充実を図る.

教育・研究 FD 委員会

〔メンバー〕 佐藤美樹（委員長）、溝渕俊二、石岡洋子、柴田優里絵

【目的】

看護学科教員に対し、FD (Faculty Development)活動を企画開催し、教育力・研究力の向上を図る.

【活動概要】

1. FD の企画開催
 - 1) 看護学科公開講座の設定

【今後の課題】

コロナ禍での実施に制限があり困難な状況が続いたが、コロナ後の授業や実習制限が徐々に回復されるが、その間の学生の教育の質の保障に関することが問題となってくると思われるので、今後は看護学科教員の要望に合わせた FD の企画にむけて、議論を重ねる.

看護学科看護部連携協議会

〔メンバー〕 山脇京子（委員長），大坂京子，濱田佳代子

【目的】

看護部との連携を強め，人事交流，看護研究の推進，より良い看護師養成等について，看護部管理者との協議を推進する。

【活動概要】

昨年度同様，新型コロナウイルス感染症拡大の対処を優先し，看護部の協力を仰ぎながら連携し，コロナ禍での附属病院での実習体制を整えた。また，部活間での新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者に対する大規模 PCR 検査を看護部の協力を得て実施した。

【今後の課題】

今後は，多くの学生が高知大学医学部附属病院に就職する様，看護部と話し合いを持ちながら取り組む。

入試広報委員会

〔メンバー〕 竹村多加（委員長），石岡洋子，笹岡晴香，濱田佳代子，吉村澄佳，柴田優里絵

【目的】

高知大学医学部看護学科および総合人間自然科学研究科が広く地域社会の中に位置づけられ，入学生の確保につながるよう，本学の特色や現況および活動等に関するホームページを介した広報，教育・研究・社会活動等に関する年報の編集，入試に関する広報の企画・調整を行う。

【活動概要】

1. 2021 年度年報編集、「年報の電子化に伴い冊子配布の廃止のお知らせ」について各大学へ文章の送付およびホームページ上の掲示
2. ホームページ管理（看護学科・看護学専攻）およびリニューアル
3. 学生募集要項の送付先調整（看護学科・看護学専攻）
4. 2022 高知看護フェア参加（2022 年 5 月 8 日）
5. 私立高知高等学校大学訪問企画立案（2022 年 6 月 3 日新型コロナウイルス感染拡大のため中止となる）
6. WEB オープンキャンパス企画・調整（2022 年 8 月 7 日）
7. 愛媛県立松山北高等学校へのガイダンス実施（2022 年 10 月 29 日）
8. オンライン相談会対応（2022 年 8 月 25 日、1 月 19 日・23 日）
9. 医学部案内企画・調整，共通教育広報誌・大学案内執筆依頼
10. 総務企画課広報調査対応（3 か月ごとに変更）

【今後の課題】

学部および大学院における受験者数の確保に向け，広報内容の充実とタイムリーな情報発信を行う。そのためにも入試室との連携を密にとる必要がある。

国際連携推進委員会（台湾大学）

〔メンバー〕 奥谷文乃（委員長）、石岡洋子、藤井千江美

【目的】

交換留学により台湾の看護学教育や文化に触れることで国際的視点の看護を考える重要性を学ぶ。また、台湾大学から学生を受け入れ、英語でコミュニケーションをとりながら日本の看護学教育や文化を紹介することで国際的な大学間交流及び学生間交流を推進する。

【活動概要】

COVID-19 の世界的大流行に伴い、双方の国際交流が不可能となった。今後事態の安定に伴い、いつでも再開できるように台湾大学の担当教員楊先生および陳先生とはメールを交換している。

【今後の課題】

再開できるまでの間、感染対策など必要な措置について、検討する。

看護学科災害対策推進委員会

〔メンバー〕 吉村澄佳（委員長）、森木妙子、高橋美美

【目的】

教職員と学生の両者が、避難場所が明確になり、災害時の防災行動がとれる。

【活動概要】

COVID-19 感染拡大を受けて、医学科との共同活動は実施されなかった。先端医療学コースの災害・救急医療研究班が作成した「オンラインツールを用いた災害教育プログラム」を各学年のオリエンテーション時に放映し、学生に視覚的な初動行動の理解と避難経路の確認を促した。

また、看護学科4年生の災害看護の講義一部を大学職員に公開することで、医療職だけでなく職員に広く災害時に備える知識と技術の共有の場となった。

【今後の課題】

- ・防災に関する知識と体験型訓練を行うための授業時間の確保
- ・指揮統制の訓練や避難体制の見直し
- ・看護学生の学外実習時の災害時マニュアル作成

親睦会

〔メンバー〕 大坂京子（委員長）， 林昌子

【目的】

看護学科教職員の相互の親睦と互助を図る。

【活動概要】

1. 親睦会としての慶弔費の支出
2. 退職者への餞別

今年度も昨年に引き続きコロナ禍のため、例年行っていた教員相互の親睦を深めるための忘年会や、退職者の送別会の開催は控えた。新型コロナウイルス感染症拡大が収束し、会食の機会が来ることを期待する。

高知大学医学部看護学科

年報 2022（令和4）年度

2023年 10月 発行

発行者 高知大学医学部看護学科
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
TEL 088(880)2520

編集者 看護学科年報作成委員会
柴田優里絵, 下元理恵, 竹村多加, 齋藤美和